

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月30日
【事業年度】	第54期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）
【会社名】	セフテック株式会社
【英訳名】	SAFTEC CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 岡崎 勇
【本店の所在の場所】	東京都文京区本郷5丁目25番14号
【電話番号】	03-3811-3188（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員経理部長 佐藤 雄考
【最寄りの連絡場所】	東京都文京区本郷5丁目25番14号
【電話番号】	03-3811-3188（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員経理部長 佐藤 雄考
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第50期 平成19年3月	第51期 平成20年3月	第52期 平成21年3月	第53期 平成22年3月	第54期 平成23年3月
売上高(千円)	7,330,418	7,201,241	6,623,817	7,098,604	6,709,554
経常利益(千円)	240,391	212,662	69,296	278,239	291,327
当期純利益(千円)	190,602	83,989	12,688	167,598	100,574
包括利益(千円)	-	-	-	-	155,527
純資産額(千円)	3,283,247	3,269,565	3,174,484	3,307,875	3,403,197
総資産額(千円)	8,799,746	8,591,691	8,478,535	8,887,080	8,606,327
1株当たり純資産額(円)	656.96	654.31	635.28	661.97	681.18
1株当たり当期純利益金額 (円)	38.14	16.81	2.54	33.54	20.13
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	37.3	38.1	37.4	37.2	39.5
自己資本利益率(%)	5.9	2.6	0.4	5.2	3.0
株価収益率(倍)	9.36	17.37	81.13	7.36	13.91
営業活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	299,746	396,301	4,789	529,605	301,881
投資活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	309,454	7,767	49,526	17,603	88,224
財務活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	170,265	237,583	112,191	299,790	378,516
現金及び現金同等物の期末残 高(千円)	2,542,070	2,693,022	2,536,093	2,748,304	2,583,445
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	268 [49]	260 [48]	270 [50]	270 [54]	253 [52]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第50期 平成19年3月	第51期 平成20年3月	第52期 平成21年3月	第53期 平成22年3月	第54期 平成23年3月
売上高(千円)	7,321,914	7,191,665	6,613,165	7,086,782	6,699,225
経常利益(千円)	236,986	194,231	55,439	252,070	264,461
当期純利益(千円)	188,266	70,764	4,911	151,783	87,302
資本金(千円)	886,000	886,000	886,000	886,000	886,000
発行済株式総数(株)	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
純資産額(千円)	3,240,319	3,213,413	3,110,555	3,228,131	3,310,180
総資産額(千円)	8,395,964	8,138,187	7,993,414	8,375,432	8,126,376
1株当たり純資産額(円)	648.38	643.07	622.49	646.02	662.56
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	12 (-)	12 (-)	12 (-)	12 (-)	12 (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	37.67	14.16	0.98	30.37	17.47
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	38.6	39.5	38.9	38.5	40.7
自己資本利益率(%)	5.9	2.2	0.2	4.8	2.7
株価収益率(倍)	9.48	20.62	210.20	8.13	16.03
配当性向(%)	31.9	84.7	1,220.8	39.5	68.7
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	254 [39]	249 [37]	258 [38]	260 [42]	244 [38]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第50期の1株当たり配当額には、創業50周年記念配当2円を含んでおります。

2【沿革】

年月	事項
昭和27年4月	道路工事用赤色警戒灯の製造及び賃貸と保守管理を行うため東京都文京区本郷に(有)岡崎商店を設立
昭和32年6月	(有)岡崎商店を東阪神点灯株式会社に改組
昭和46年7月	横浜市保土ヶ谷区に横浜営業所(現 横浜市神奈川区)、名古屋市東区に名古屋営業所(現 名古屋市北区)、大阪市東住吉区(現 藤井寺市)に大阪営業所を開設(昭和52年8月、それぞれ支店に改組)
昭和52年6月	東阪神点灯株式会社を東阪神株式会社に商号変更
12月	愛知県小牧市に保安用品製造のため愛知フェンス工業株式会社を設立(連結子会社)
昭和54年6月	福岡市東区に福岡支店(現 糟屋郡粕屋町)を開設
昭和60年7月	熊本県飽託郡北部町に熊本営業所(現 熊本市)を開設
昭和61年9月	福岡県久留米市に久留米営業所(現 筑後市)を開設
昭和62年10月	長崎県西彼杵郡時津町に長崎営業所を開設
昭和63年4月	宮城県仙台市に仙台支店(現 仙台市宮城野区)、札幌市東区に札幌支店(現 札幌市白石区)を開設
平成元年7月	岩手県紫波郡矢巾町に盛岡営業所を開設
平成2年4月	岡山県岡山市に岡山支店(現 岡山営業所)を開設
平成3年7月	静岡県富士宮市に静岡営業所を開設
平成4年2月	東京都文京区本郷に本社ビル完成し移転
11月	鹿児島県日置郡松元町に鹿児島営業所(現 鹿児島市)を開設
平成6年1月	配送の効率化をはかるため埼玉県川口市に関東配送センターを開設
4月	北海道帯広市に帯広営業所(現 河東郡音更町)を開設
5月	長野県松本市に松本営業所を開設
平成7年2月	東阪神株式会社をセフテック株式会社に商号変更
5月	愛媛県松山市に松山営業所を開設
8月	青森県青森市に青森営業所を開設
10月	日本証券協会に株式を店頭登録(現 大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)上場)
平成8年4月	北海道旭川市に旭川営業所を開設
平成11年5月	川口配送センターを閉鎖し、埼玉県大里郡妻沼町(現 熊谷市)にレンタル配送センターを開設
平成12年10月	広島県広島市に広島営業所を開設
平成13年6月	福島県郡山市に郡山営業所を開設
平成14年6月	東京都八王子市に西関東営業所を開設
9月	関東配送センターを廃止し、配送機能及びストックヤードを兼ねた千葉営業所(千葉県八街市)、東関東営業所(茨城県取手市)を開設
	レンタル配送センターを北関東営業所として改組
平成15年5月	名古屋地区のレンタル強化を目的として東阪神株式会社を設立(非連結子会社)
平成16年6月	北海道釧路市に釧路営業所を開設
10月	福岡県京都郡に北九州営業所を開設
平成17年1月	千葉営業所を東関東営業所に統合するとともに、埼玉県岩槻市に埼玉営業所(現 さいたま市)を開設
4月	千葉県柏市に千葉営業所を開設し、東関東営業所を同営業所に統合
平成21年3月	松山営業所を廃止し、広島営業所に統合
4月	栃木県鹿沼市に栃木営業所を開設
平成22年5月	千葉県市原市に東関東営業所を開設
6月	釧路営業所を閉鎖し、札幌支店及び帯広営業所に統合
11月	埼玉県鶴ヶ島市に西埼玉営業所を開設
平成23年3月	東阪神株式会社清算

### 3【事業の内容】

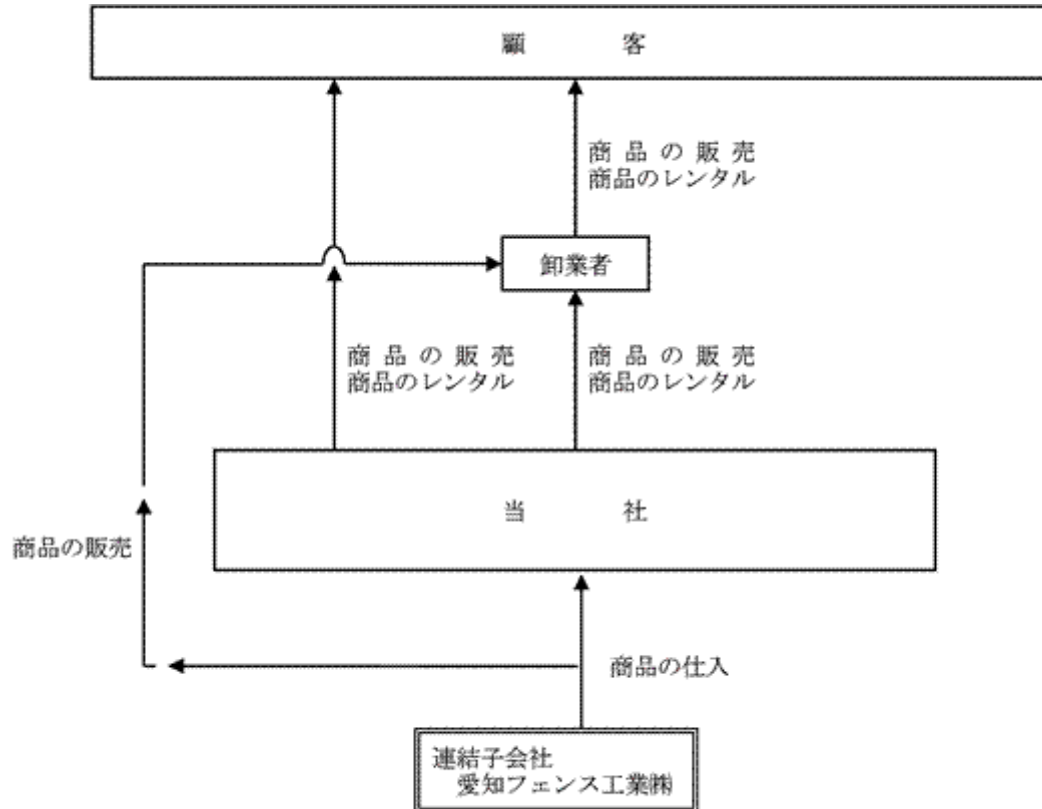
当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社及び子会社1社で構成され、公共事業関連のうち道路、上下水道、治水、環境衛生、公園等の土木工事に用保安用品の販売及びレンタルを中心に全国ネットで営業展開を行っております。

当社グループの事業に係わる各社の位置づけは、次のとおりであります。

当社は、標識・標示板、安全機材、保安警告サイン、安全防災用品及びその他工事用品等を直接エンドユーザーに商品提供する「直販」、代理店を経由して商品を提供する「卸」、商品を短期間使用するユーザー向けに「レンタル」などのサービス等を行っておりますが、主に安全機材の内バリケード及びフェンス類、標識・標示板については全般を、その製造販売を行っている子会社である愛知フェンス工業株式会社より購入しております。

なお、当連結会計年度において、非連結子会社であった東阪神株式会社は平成23年3月28日に清算いたしました。

事業系統図は次のとおりであります。



当社グループの、品目種別の内容は、次のとおりであります。

事業の種類	品目種別	主要品目	品目内容
保安用品事業	標識・標示板	マンガ板、矢印板、S L板、交通標識、黒板、電光標識、掲示板、看板	工事作業や通行などにおいて案内や注意を目的としたパネル、ボード類の標識、標示板類で「立入禁止」「徐行」などがあります。
	安全機材	バリケード、ガードフェンス、カラーフェンス、工事用ゲート、電線保護管	主に工事現場をはじめとする様々な危険区域への立入り制限と作業の円滑な進行を確保するための工事用フェンスなどの機材類であります。
	保安警告サイン	信号機、回転灯、保安灯、合図灯、カラーコーン、コーンパー、コーンウェイト	工事現場や人々の往来する場所などで危険区域の明示と安全区域への誘導を行うための点滅灯やコーンなどの用品類であります。
	安全防災用品	安全チョッキ、安全靴、安全ネット、消火器、ロープ、防じんマスク、メガネ	工事作業関係者をはじめとする様々な危険作業にたずさわるとの要員の安全を守り事故を未然に防ぐために用いられる用品類であります。
	その他	電気機材、測量器具、ペイント、ハシゴ、仮設ハウス、標識工事、標示工事	主に、各種工事現場などで作業や現場周辺で使用される補助器具類や用品類であります。
	レンタル	安全機材、保安警告サイン類のレンタル	短期間の工事やイベントなどに使用される安全機材、保安警告サイン類をはじめとするレンタルサービスであります。

#### 4【関係会社の状況】

##### 連結子会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業内容	議決権の所有割合 又は被所有割合 (%)	関係内容
愛知フェンス工業(株) (注)	東京都文京区	10,000	安全機材の製造・販売	100	当社標識・標示板および安全機材の一部を製造している。 役員兼任あり。 当社からの土地・建物の賃借あり。

(注) 特定子会社であります。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
東日本エリア	127 (31)
西日本エリア	113 (21)
報告セグメント計	240 (52)
全社(共通)	13
合計	253 (52)

- (注) 1. 嘱託及び臨時従業員は年間平均人員を( )外数で記載しており、これは上記従業員数には含まれておりません。  
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(円)
244 (38)	39.1 才	10.2 年	4,181,917

セグメントの名称	従業員数(人)
東日本エリア	123 (23)
西日本エリア	108 (15)
報告セグメント計	231 (38)
全社(共通)	13
合計	244 (38)

- (注) 1. 嘱託及び臨時従業員は年間平均人員を( )外数で記載しており、これは上記従業員数には含まれておりません。  
2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。  
3. 平均年間給与には勤続1年未満の従業員(11名)等は含まれておりません。  
4. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

提出会社の労働組合としては、全労協全国一般東京労働組合に属しております。  
労使関係について、特記すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、緩やかな企業業績の回復が見られ景気の悪化に歯止めがかかる兆しがありました。また、継続的な円高やデフレなどの不安定な要因の他、雇用環境の悪化や個人消費の低迷などにより厳しい状況で推移いたしました。

また、東日本大震災の発生により国内経済に与える影響は未知数であります。

当社グループが関連する工事用保安用品業界におきましては、民間工事が回復傾向にありましたが、公共工事予算の大幅な削減により、大変厳しい市場環境となりました。

この様な状況下、当社グループはレンタル投入の抑制、経費削減に努め、また引き続き高速道路関連商品の付加価値向上と提案型営業を推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は6,709百万円（前連結会計年度比5.5%減）となりました。利益面につきましては、営業利益が363百万円（前連結会計年度比2.0%増）となり、経常利益はユーロ円債に関する投資有価証券評価損29百万円を営業外費用に計上したことにより291百万円（前連結会計年度比4.7%増）となりました。

また当期純利益につきましては、子会社清算益14百万円、退職給付制度改定益86百万円を特別利益に計上し、株価低迷による投資有価証券評価損75百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額26百万円を特別損失に計上し、また、法人税等調整額35百万円を計上したことにより100百万円（前連結会計年度比40.0%減）となりました。

商品の品目別売上高の内訳につきましては、標識・標示板1,487百万円（前連結会計年度比12.9%減）、安全機材594百万円（前連結会計年度比6.7%減）、保安警告サイン439百万円（前連結会計年度比1.1%増）、安全防災用品565百万円（前連結会計年度比2.0%減）、その他769百万円（前連結会計年度比4.5%減）であります。また、レンタル売上高につきましては2,852百万円（前連結会計年度比2.8%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### （東日本エリア）

当連結会計年度において、東日本エリアの売上高は3,422百万円（前連結会計年度比8.6%減）、営業利益は171百万円（前連結会計年度比35.2%減）となりました。営業の状況としては、売上高で主に北海道地区の工事予算の削減による落込みが多かったことによるものです。

利益につきましては、利益率の下落はなかったものの、予想以上の売上高減少があったことにより減少いたしました。

#### （西日本エリア）

当連結会計年度において、西日本エリアの売上高は3,287百万円（前連結会計年度比2.0%減）、営業利益は370百万円（前連結会計年度比8.6%増）となりました。営業の状況としては、売上高で見ると地区別では大きい落込みがある所はなく、全体的に横這いか減少している地区が多くありました。

利益につきましては、レンタル投入の抑制と経費の効率化により増加いたしました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末より164百万円減少いたしました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、301百万円の収入（前連結会計年度は529百万円の収入）となりました。

この内訳の主なものは、収入では税金等調整前当期純利益292百万円、減価償却費313百万円、売上債権の減少額172百万円によるものであり、支出では退職給付制度改定益86百万円、レンタル資産取得による支出181百万円、仕入債務の減少81百万円、法人税等の支払額218百万円であります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、88百万円の支出（前連結会計年度は17百万円の支出）となりました。

この内訳の主なものは、収入では、子会社の清算による収入24百万円によるものであり、支出では有形固定資産の取得による支出102百万円、その他投資等の取得による支出16百万円であります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、378百万円の支出（前連結会計年度は299百万円の支出）となりました。

この内訳の主なものは、借入金減少195百万円と配当金の支払額60百万円、リース債務の返済による支出123百万円であります。



## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における報告セグメントにおける生産実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	前年同期比(%)
東日本エリア(千円)	413,042	92.6
西日本エリア(千円)	399,140	93.5
合計(千円)	812,183	93.0

なお、当連結会計年度における品目別の生産実績は、次のとおりであります。

品目	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	前年同期比(%)
標識・標示板(千円)	334,970	79.5
安全機材(千円)	224,129	107.0
保安警告サイン(千円)	132,139	117.3
安全防災用品(千円)	34,441	84.0
その他(千円)	86,502	97.2
合計(千円)	812,183	93.0

(注) 1. 金額は販売価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 商品仕入実績

当連結会計年度における報告セグメントにおける商品仕入実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	前年同期比(%)
東日本エリア(千円)	1,272,165	89.1
西日本エリア(千円)	1,254,528	94.6
合計(千円)	2,526,694	91.8

なお、当連結会計年度における品目別の商品仕入実績は、次のとおりであります。

品目	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	前年同期比(%)
標識・標示板(千円)	544,616	93.5
安全機材(千円)	184,545	77.2
保安警告サイン(千円)	181,069	102.5
安全防災用品(千円)	372,630	98.8
その他(千円)	493,440	97.6
小計(千円)	1,776,303	94.4
レンタル仕入高(千円)	750,391	86.1
合計(千円)	2,526,694	91.8

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当社グループは、受注生産を行っておりません。

(4) 販売実績

当連結会計年度における報告セグメントにおける販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	前年同期比(%)
東日本エリア(千円)	3,422,013	91.4
西日本エリア(千円)	3,287,540	98.0
合計(千円)	6,709,554	94.5

なお、当連結会計年度における品目別の販売実績は、次のとおりであります。

品目	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	前年同期比(%)
標識・標示板(千円)	1,487,847	87.1
安全機材(千円)	594,469	93.3
保安警告サイン(千円)	439,252	101.1
安全防災用品(千円)	565,123	98.0
その他(千円)	769,965	95.5
小計(千円)	3,856,659	92.6
レンタル売上高(千円)	2,852,895	97.2
合計(千円)	6,709,554	94.5

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

当業界を取り巻く環境は、公共工事の減少から企業間の受注競争が一段と激化するなど、厳しい経営環境にありますが、地域によっては、道路、水道などのインフラ整備の需要が高まってきております。

このような状況下、当社グループは業績の回復を最優先課題として以下の項目について全社を挙げて取り組んでまいります。

安全と環境を重視し、かつ、顧客ニーズに合った高機能・高付加価値新商品の開発に鋭意注力し、他社との差別化を図っております。

首都圏を中心に各店間における営業部門の連携強化や営業員のO.J.Tを実施し、営業体制の強化を図るとともに販路の拡大に努めております。

建設業者は、工事コストを削減する目的から保安用品のレンタル移行を益々進めておりますが、これに対応するため顧客に密着したレンタル営業を更に推進してまいります。

また、レンタルへの商品投入は原価の上昇となるため、全体的には投入を抑制し、利益を確保しつつ、レンタル商品の効率的な運用管理を行っております。

民間諸団体や地方自治体が主催するイベント関連への提案営業を強化し、新たな顧客開拓とレンタル受注の拡大を図ってまいります。

主力商品の海外調達率を更に高めることや、看板作製業務の内製化、仕入単価の見直しを図り、原価低減を進めてまいります。

意識改革につきましては、社員の士気を高め、創意工夫を啓発して社業発展の原動力となる人事活性化施策を展開してまいります。

工事時の保安用品だけでなく、工事時以外の道路交通の安全に貢献する商品を開発提供してまいります。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 市場環境の変化

当社グループは、道路工事等で使用される工事用保安用品の販売及びレンタル業を営んでおります。

土木工事関連業界におきましては、公共投資の減少が続き、年々建設市場が縮小するとともに価格競争が激化し厳しい環境にあります。

当社グループといたしましては、競争力のある新商品開発、営業力の強化などに取り組んでおりますが、公共投資の動向及び地方自治体の財政状態の変化によっては、業績等に大きな影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 経営成績の季節的変動について

当社グループの上期売上高は、3月までの期末工事終了引き上げ、ゴールデンウィーク（大型連休）等により、4・5月の売上高減、夏季休業による8月の売上高減、下期売上高は、年度末集中工事などによって売上高増の傾向があり、上期下期の売上高が下期に偏る傾向にあり、これに伴い営業損益も大きく影響を受ける可能性があります。

過去3年間の上期下期の売上高と営業損益の構成比は次のとおりであります。

決算年月	平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高（千円）	2,951,035	3,672,781	3,148,983	3,949,621	3,066,409	3,643,145
構成比（％）	44.6	55.4	44.4	55.6	45.7	54.3
営業損益（千円）	155,183	237,240	27,597	383,902	5,790	357,755
構成比（％）	-	289.1	-	107.7	1.6	98.4

##### (3) レンタル資産投入による損益への影響について

当社グループは、レンタル需要の増加と顧客のニーズに対応すべく、レンタル商品の更新と増強を積極的に行っております。しかしながらレンタル資産はその投入額の償却期間と、投入後のレンタル売上期間とは必ずしも一致するものではなく、通常はレンタル売上期間の方が長くなっております。よって、レンタル事業の拡大の一時期においては、売上原価としての償却額の増加に見合うだけのレンタル売上が計上されず年間の業績悪化要因となる可能性があります。

#### 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 6【研究開発活動】

当社グループは顧客ニーズに対応していくため、商品の研究開発に取り組んでおります。なお、研究開発費については、各セグメントに配分できない基礎開発費であり、当連結会計年度の研究開発費の総額は785千円であります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 財政状態の分析

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ280百万円減少し8,606百万円となりました。各資産、負債及び純資産の要因は次のとおりです。

#### (流動資産)

当連結会計年度末における流動資産は5,450百万円（前連結会計年度末5,787百万円）となり、337百万円の減少いたしました。

この主な要因は次のとおりです。

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減	要因
現金及び預金	2,748百万円	2,583百万円	164百万円	1
受取手形及び売掛金	2,090百万円	1,917百万円	172百万円	2

- 1 連結キャッシュ・フロー計算書をご参照ください。
- 2 当連結会計年度の売上高が前連結会計年度比5.5%減となったためであります。

#### (固定資産)

当連結会計年度末における固定資産は3,156百万円（前連結会計年度末3,099百万円）となり、56百万円の増加となりました。

この主な要因は次のとおりです。

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減	要因
有形固定資産	2,475百万円	2,646百万円	170百万円	1
投資有価証券	386百万円	326百万円	60百万円	2
繰延税金資産	56百万円	24百万円	32百万円	3

- 1 主に建物及び構築物の増加63百万円と、リース資産の増加55百万円によるものであります。
- 2 時価のある投資有価証券の下落50百万円と子会社清算による減少10百万円であります。
- 3 計上可能な一時差異の減少によるものであります。

#### (流動負債)

当連結会計年度末における流動負債は3,622百万円（前連結会計年度末3,551百万円）となり、71百万円の増加となりました。

この主な要因は次のとおりです。

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減	要因
支払手形及び買掛金	833百万円	766百万円	66百万円	1
1年内返済長期借入金	540百万円	730百万円	190百万円	2
リース債務	104百万円	140百万円	36百万円	3
未払法人税等	142百万円	77百万円	64百万円	4

- 1 当連結会計年度の売上高が前連結会計年度比5.5%減となったためであります。
- 2 返済期日による流動負債への振替の増加によるものであります。
- 3 リース資産の増加によるものであります。
- 4 課税所得の減少と中間納付額が多かったためであります。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債は1,580百万円(前連結会計年度末2,027百万円)となり、447百万円の減少となりました。

この主な要因は次のとおりです。

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減	要因
長期借入金	1,360百万円	980百万円	380百万円	1
リース債務	329百万円	349百万円	20百万円	2
退職給付引当金	139百万円	51百万円	87百万円	3

- 1 返済期日による流動負債への振替の増加、返済によるものであります。
- 2 リース資産の増加によるものであります。
- 3 適格退職年金制度から確定拠出年金制度及び退職一時金制度への移行によるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は3,403百万円(前連結会計年度末3,307百万円)となり、95百万円の増加となりました。

この主な要因は次のとおりです。

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減	要因
その他有価証券評価差額金	54百万円	0百万円	54百万円	

前連結会計年度にその他有価証券評価差額金で計上していた評価損を当連結会計年度に投資有価証券評価損へ計上したためであります。

(2) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度末におけるキャッシュ・フローの分析については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要

(2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

なお、当企業集団のキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

	第50期 平成19年3月期	第51期 平成20年3月期	第52期 平成21年3月期	第53期 平成22年3月期	第54期 平成23年3月期
自己資本比率(%)	37.3	38.1	37.4	37.2	39.5
時価ベースの自己資本比率(%)	20.3	17.0	12.1	13.9	16.3
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	13.2	9.6	827.3	7.6	12.9
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	4.7	6.5	0.1	8.8	4.8

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

1. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。
2. 株式時価総額は、期末株価終値 × 期末発行済株式総数により算出しております。
3. 営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3) 経営成績の分析

「第2 事業の状況 1 業績等の概要、(1) 業績」をご参照ください。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社および連結子会社）の設備投資額については、東日本エリアは関東地区の販売網の強化のため2営業所を開設、更に横浜支店を敷地の広い場所へ移転させました。これらにより、東日本エリアの設備投資額は90,005千円、西日本エリアは6,976千円となりました。また、報告セグメントに帰属しない本社の設備投資額は384,223千円であり、当連結会計年度の設備投資額は481,206千円であります。

この内訳は、建物及び構築物購入105,791千円、工具、器具及び備品等購入11,197千円、レンタル資産購入181,977千円、リース資産購入181,669千円であります。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

なお、当社では報告セグメントに帰属しない本社資産が含まれているため、また、類似の事業を営む事業所を多数設置していることにより、事業の地域別に一括して記載しております。

##### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬 具 (千円)	工具、器 具及び備 品 (千円)	レンタル 資産 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース 資産 (千円)		合計 (千円)
本社（東京都文京区）		会社統括設備	409,955	428	5,592	166,364	227,652 (248.81)	481,755	1,291,748	23
関東地区支店・営業所 (千葉県柏市他)	東日本エ リア	販売設備	214,983	3,992	2,694	2,172	725,385 (14,823.05)	-	949,228	64
北海道地区支店・営業所 (札幌市白石区他)		販売設備	5,731	812	574	507	-	-	7,626	23
東北地区支店・営業所 (仙台市宮城野区他)		販売設備	1,973	76	809	1,618	123,374 (1,737.67)	-	127,852	26
中部地区支店・営業所 (名古屋市北区他)	西日本エ リア	販売設備	21,328	299	1,050	430	126,400 (1,767.57)	-	149,509	31
近畿地区支店・営業所 (大阪府藤井寺市)		販売設備	2,115	131	198	424	-	-	2,869	16
中四国地区支店・営業所 (岡山市南区他)		販売設備	2,466	47	272	414	-	-	3,200	19
九州地区支店・営業所 (福岡県糟屋郡他)		販売設備	2,814	745	613	3,126	40,047 (690.83)	-	47,348	42

##### (2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (千円)	機械装置及び 運搬具 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	合計 (千円)	
愛知フェンス工業(株)	熊谷センター (埼玉県熊谷市)	東日本エリア	生産設備	-	825	252	1,077	3
	小牧・九州センター (愛知県小牧市他)	西日本エリア	生産設備	167	2,936	235	3,339	5

(注) 1. 当社グループには「在外子会社」はありません。

2. 提出会社の「本社」及び「関東地区支店・営業所」の中には、愛知フェンス工業(株)に熊谷センターとして貸与中の土地36,383千円(1,436.79㎡)、建物及び構築物4,710千円を含んでおります。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,800,000
計	16,800,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年6月30日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,000,000	5,000,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数1,000株
計	5,000,000	5,000,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成7年10月3日	800,000	5,000,000	496,000	886,000	723,090	968,090

##### (注) 有償一般募集

入札による募集 600,000株

発行価格 1,240円

資本組入額 620円

払込金総額 923,090千円

入札によらない募集 200,000株

発行価格 1,480円

資本組入額 620円

払込金総額 296,000千円

(6)【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	
					個人以外	個人		
株主数(人)	-	9	6	23	1	-	534	573
所有株式数(単元)	-	396	9	2,019	17	-	2,553	4,994
所有株式数の割合(%)	-	7.93	0.18	40.43	0.34	-	51.12	100

(注)自己株式3,988株は「個人その他」に3単元及び「単元未満株式の状況」に988株を含めて記載しております。

(7)【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(有)裕崎興産	東京都文京区本郷5-25-14	1,384	27.69
岡崎 勇	東京都杉並区	984	19.68
ティーツー・キャピタル(株)	東京都千代田区二番町9-10 タワー麹町ビル2階	425	8.50
セフテック従業員持株会	東京都文京区本郷5-25-14	123	2.47
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	96	1.92
小徳 宏之	兵庫県宝塚市	75	1.50
(合)東京理財	東京都世田谷区中町5-20-13	62	1.24
(有)細田火薬店	兵庫県多可郡多加町加美区的地場424	50	1.00
(株)みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1-1-5	48	0.96
(株)りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	48	0.96
計	-	3,296	65.93

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,991,000	4,991	-
単元未満株式	普通株式 6,000	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	5,000,000	-	-
総株主の議決権	-	4,991	-

(注)「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式が988株含まれております。



【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
セフテック(株)	東京都文京区本郷 5-25-14	3,000	-	3,000	0.06
計	-	3,000	-	3,000	0.06

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	979	241,813
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	3,988	-	3,988	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社グループは、株主尊重を第一義と考え、今後の業績の伸展状況、配当性向を考慮しつつ、安定的な配当の維持及び適正な利益還元を行っていくことを基本方針としております。

剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。当社グループは、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準として中間配当を行うことができる旨を定款に定めており、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことができますが、売上高が下期に偏る傾向にありますので、年1回の配当を基本としております。

当期の配当につきましては、引き続き安定的な配当を実施し株主の支援に応えるため、1株当たり12円として実施することを決定いたしました。

内部留保金につきましては、将来に向けた企業体質の強化と積極的な事業展開のために有効投資してまいりたいと考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりです。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当金(円)
平成23年6月29日 定時株主総会決議	59,952	12

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	380	355	292	308	289
最低(円)	235	234	175	195	216

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所JASDAQにおけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高(円)	245	238	260	270	278	289
最低(円)	229	225	216	251	254	240

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQにおけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長兼社長執行役員		岡崎 勇	昭和17年2月21日生	昭和38年12月 当社入社(旧社名 東阪神点灯株) 昭和41年6月 取締役 昭和46年6月 代表取締役社長 平成9年6月 会長 平成10年6月 愛知フェンス工業株代表取締役社長(現任) 平成11年6月 取締役会長 平成12年6月 代表取締役社長 平成18年4月 代表取締役社長兼社長執行役員(現任)	(注) 2	984
代表取締役副社長兼副社長執行役員		涌井 澄欣	昭和38年6月18日生	平成13年3月 当社入社 平成18年4月 執行役員名古屋支店長 平成18年8月 執行役員総務部長 平成19年6月 取締役兼執行役員総務部長 平成21年6月 常務取締役兼常務執行役員総務部長 平成22年7月 専務取締役兼専務執行役員総務部長 平成23年6月 代表取締役副社長兼副社長執行役員(現任)	(注) 2	11
取締役兼執行役員	営業本部長	岩清水 秀貴	昭和34年6月9日生	昭和60年11月 当社入社 平成13年4月 仙台支店長 平成18年4月 執行役員仙台支店長 平成20年5月 執行役員営業本部長 平成21年6月 取締役兼執行役員営業本部長(現任)	(注) 2	5
取締役兼執行役員	経理部長兼子会社担当	佐藤 雄考	昭和37年10月11日生	平成6年6月 当社入社 平成11年7月 経理部次長 平成18年8月 執行役員経理部長兼子会社担当 平成21年6月 取締役兼執行役員経理部長兼子会社担当(現任)	(注) 2	2
常勤監査役		清水 誠	昭和21年1月21日生	平成9年9月 当社入社 総務部次長 平成10年4月 総務部長 平成12年6月 取締役総務部長 平成14年11月 取締役管理本部本部長 平成15年5月 取締役総務部長 平成18年4月 取締役兼執行役員総務部長 平成18年7月 当社退社 平成19年6月 常勤監査役(現任)	(注) 4	2
監査役		伊東 正	昭和5年3月6日生	昭和39年4月 弁護士登録 昭和54年4月 東京弁護士会副会長 平成16年6月 当社監査役(現任)	(注) 3	-
監査役		坂野 宣弘	昭和32年3月6日生	平成2年3月 公認会計士登録 平成5年1月 坂野公認会計士事務所開設 平成5年4月 税理士登録 平成18年11月 当社一時監査役 平成19年6月 当社監査役(現任)	(注) 4	-
計						1,004

- (注) 1. 監査役伊東 正および坂野宣弘は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
2. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年。
  3. 平成20年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年。
  4. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年。
  5. 当社は、取締役による意思決定機能と執行役員による業務執行機能を分離し、経営の効率化と業務執行のスピードアップを図るため、執行役員制度を導入しております。  
執行役員は次の5名であります(取締役兼務者を除く)。  
執行役員 山下 俊弘      執行役員 山田 幸広  
執行役員 美田 昌宏      執行役員 今村 正憲  
執行役員 市川 忠

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

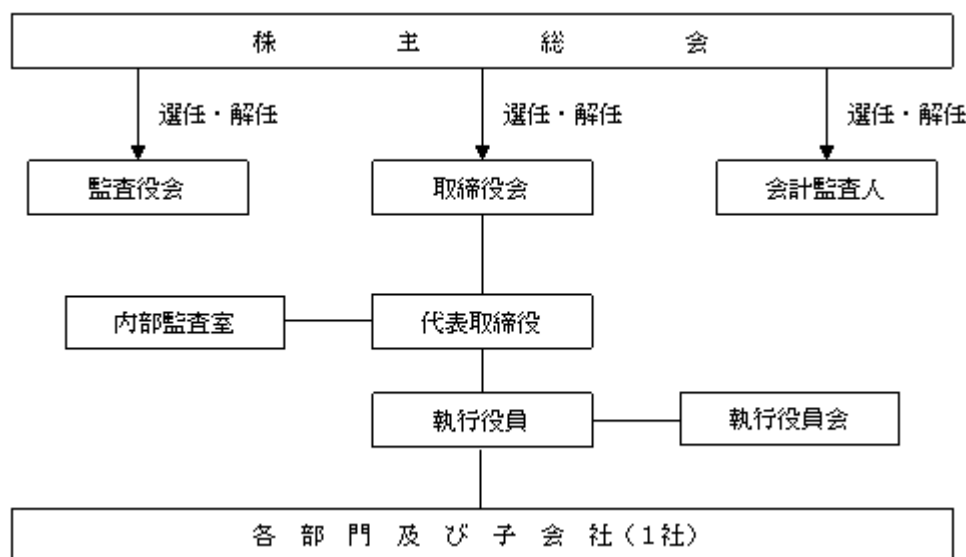
##### (企業統治の体制の概要)

当社はどのような状況や環境でも、顧客最重視の経営姿勢を中心に据え、また、変化の著しい外部環境に機敏に即応する経営戦略を積極的に取りつつも経営の健全性・透明性を高めることが最重要課題の一つであると認識しております。

取締役会は、会社の意思決定機関として、経営の基本方針、法令・定款に定められた事項及びその他経営に関する重要事項を決定しつつ、取締役の業務執行状況を監督しており、また、監査役会は取締役の職務執行全般について、厳正な監査を行っております。

執行役員会は、予算・組織・人事・事業計画等全社的な意思決定事項について協議し、必要であれば議案を取締役会へ提出しております。

会社の経営上の意思決定、執行及び監査に係る経営管理組織その他コーポレート・ガバナンス体制の概要は次のとおりです。



##### (企業統治の体制を採用する理由)

当社は現状の取締役と監査役という枠組みの中で、会社業務に精通した社内取締役による迅速な経営意思決定及び監査役による監査機能の充実等が可能であることから、委員会等設置会社ではなく従来の監査役制度を採用しております。

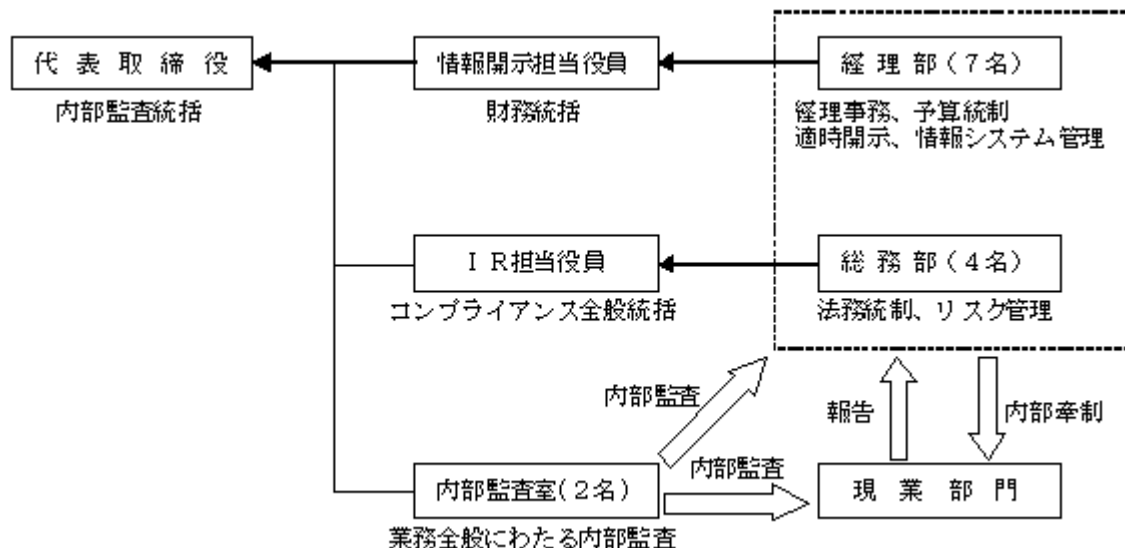
取締役会は、4名の取締役で構成されており、監査役出席の上、原則として毎月開催し意思決定及び業務報告等を行っております。また、業務執行体制を強化するために平成18年4月より執行役員制度を導入し、業務執行の迅速化及び権限と責任の明確化に努めております。

##### (内部統制システム及びリスク管理体制の整備)

当社は、業務の有効性・効率性、財務報告の信頼性、コンプライアンスの確保、資産の保全などの統制目的を達成するため、企業理念に基づいた基本方針及び役員、社員が遵守すべき倫理規定について、各拠点への掲示を義務付け周知徹底を行っております。また、内部通報制度を定め内部統制とコンプライアンスについて研修を実施しております。

リスク管理体制については、リスク管理委員会を最低年1回、緊急時には都度開催し、リスクの洗い出しや、倫理規程の見直しその他、職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための対策を検討し実施いたしております。

また、管理部門の配置状況及び現業部門への牽制機能の模式図は次のとおりです。



#### 内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査体制としては、代表取締役社長直轄の内部監査室を設置しております。

内部監査室は、年間計画により各支店、営業所並びに各部門の業務全般について、法律、法令、社内規程に沿った業務執行がされているかの監査を実施し、監査結果を代表取締役社長と常勤監査役へ報告し会計監査人には必要に応じて提出しております。

また、必要に応じ顧問弁護士、税理士などの専門家から経営判断上のアドバイスを受けるなど、経営に法律面でのチェック機能が働くよう、法令遵守の徹底を図っております。

監査役会につきましては、3名の監査役で構成され、うち2名は社外監査役（弁護士及び公認会計士）であり、その専門的かつ客観的立場で厳正に監査を行い監査機能の充実を図っております。

当期の実施状況としては、監査役会を年4回開催し、重要事項について協議する他、会計監査人との面談を持ち、特に会計上、内部統制上の問題につき協議し、監査はより実効的に行われております。

また、一般株主保護の為、一般株主と利益相反のない社外監査役2名を独立役員に選任しております。

#### 会計監査の状況

会計監査につきましては、新日本有限責任監査法人に委託し、期末のみではなく期中においても監査が実施されており、監査結果について意見交換、改善などの提言を受けているほか、監査役会にも適時報告されております。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人及び継続監査年数は次のとおりです。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人	継続監査年数
稲垣 正人	新日本有限責任監査法人	1年
渥美 龍彦	新日本有限責任監査法人	6年

上記の他、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他6名であります。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であり、社外取締役は選任しておりません。社外監査役との間には、人的関係、資本的関係又は取引関係、その他利害関係はありません。

当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しています。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

社外監査役は、監査役会での監査業務、内部監査室との連携及び会計監査人からの報告内容の精査を行い取締役会へ意見等を行っております。

役員報酬等

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	基本報酬(千円)	対象となる役員の 員数(人)
取締役(社外取締役を除く)	63,990	63,990	5
監査役(社外監査役を除く)	3,600	3,600	1
社外役員	4,200	4,200	2

平成6年10月25日開催の臨時株主総会で取締役及び監査役に対する報酬限度額を取締役は年間総額300百万円以内、監査役は年間総額30百万円以内と決議しております。

なお、当社は役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

取締役の定数

当社の取締役は、12名以内とする旨定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議できることとしている事項

(中間配当)

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当を支払うことができる旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、株主総会の円滑な運営を行うため、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって決議を行う旨定款に定めております。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

6 銘柄 102,851千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （千円）	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	213,900	104,811	取引金融機関であることと 資金調達機能の強化
(株)グリーンクロス	20,000	9,640	営業上取引の安定化
(株)みずほフィナンシャルグループ	20,150	3,727	取引金融機関であることと 資金調達機能の強化
(株)りそなホールディングス	3,300	3,900	取引金融機関であることと 資金調達機能の強化
大林道路(株)	1,118	238	営業上取引の安定化

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （千円）	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	213,900	82,137	取引金融機関であることと 資金調達機能の強化
(株)グリーンクロス	20,000	9,360	営業上取引の安定化
(株)みずほフィナンシャルグループ	20,150	2,780	取引金融機関であることと 資金調達機能の強化
(株)りそなホールディングス	3,300	1,306	取引金融機関であることと 資金調達機能の強化
大林道路(株)	1,118	266	営業上取引の安定化

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度 （千円）	当事業年度（千円）			
	貸借対照表計 上額の合計額	貸借対照表計 上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	-	-	-	-	-
上記以外の株式	58,812	65,076	174	-	764

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく 報酬（百万円）	非監査業務に基づく報 酬（百万円）	監査証明業務に基づく 報酬（百万円）	非監査業務に基づく報 酬（百万円）
提出会社	26	-	23	-
連結子会社	-	-	-	-
計	26	-	23	-

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。



**【監査報酬の決定方針】**

当社は「監査公認会計士等に対する報酬の額の決定に関する方針」を特に定めておりませんが、監査報酬は、監査日数、当社グループの規模、業務の特性等を勘案し、会計監査人と協議のうえ決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の連結財務諸表及び第53期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表並びに当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の連結財務諸表及び第54期事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するとともに、各種セミナーへの参加、財務会計や税務の専門誌を定期的に購読し、情報を取得しております。

1【連結財務諸表等】  
 (1)【連結財務諸表】  
 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,748,304	2,583,445
受取手形及び売掛金	2,090,664	1,917,835
商品及び製品	729,297	736,875
原材料	137,553	129,721
繰延税金資産	62,983	59,099
その他	38,105	38,842
貸倒引当金	19,400	15,600
流動資産合計	5,787,509	5,450,218
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,680,841	1,782,540
減価償却累計額	4 1,064,723	4 1,102,624
建物及び構築物(純額)	1 616,117	1 679,916
レンタル資産	875,341	932,774
減価償却累計額	755,898	757,716
レンタル資産(純額)	119,443	175,058
土地	1, 2 1,287,446	1, 2 1,287,446
リース資産	521,084	700,310
減価償却累計額	94,456	218,554
リース資産(純額)	426,627	481,755
その他	231,034	225,873
減価償却累計額	4 204,841	4 203,283
その他(純額)	26,192	22,589
有形固定資産合計	2,475,828	2,646,766
無形固定資産	14,738	13,061
投資その他の資産		
投資有価証券	3 386,859	326,760
繰延税金資産	56,737	24,108
その他	191,169	163,629
貸倒引当金	25,763	18,217
投資その他の資産合計	609,003	496,280
固定資産合計	3,099,570	3,156,108
資産合計	8,887,080	8,606,327

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	833,245	766,569
短期借入金	<sup>1</sup> 1,686,000	<sup>1</sup> 1,681,000
1年内返済予定の長期借入金	<sup>1</sup> 540,000	<sup>1</sup> 730,000
リース債務	104,016	140,450
未払法人税等	142,084	77,092
賞与引当金	72,471	68,801
その他	173,502	158,434
流動負債合計	3,551,320	3,622,348
固定負債		
長期借入金	<sup>1</sup> 1,360,000	<sup>1</sup> 980,000
リース債務	329,135	349,725
長期未払金	72,199	72,199
再評価に係る繰延税金負債	<sup>2</sup> 126,530	<sup>2</sup> 126,530
退職給付引当金	139,439	51,847
その他	579	479
固定負債合計	2,027,884	1,580,781
負債合計	5,579,204	5,203,130
純資産の部		
株主資本		
資本金	886,000	886,000
資本剰余金	968,090	968,090
利益剰余金	2,792,677	2,833,288
自己株式	828	1,070
株主資本合計	4,645,938	4,686,307
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	54,059	893
土地再評価差額金	<sup>2</sup> 1,284,003	<sup>2</sup> 1,284,003
その他の包括利益累計額合計	1,338,063	1,283,110
純資産合計	3,307,875	3,403,197
負債純資産合計	8,887,080	8,606,327

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)
売上高	7,098,604	6,709,554
売上原価	4 3,715,094	4 3,346,529
売上総利益	3,383,509	3,363,025
販売費及び一般管理費		
運搬費	472,296	454,852
貸倒引当金繰入額	7,024	11,190
従業員給料及び賞与	1,194,087	1,168,893
賞与引当金繰入額	69,312	65,828
退職給付費用	39,884	31,337
福利厚生費	219,282	223,216
賃借料	379,345	387,938
減価償却費	58,832	62,498
その他	1 587,139	1 593,722
販売費及び一般管理費合計	3,027,204	2,999,478
営業利益	356,305	363,546
営業外収益		
受取利息	6,794	5,536
受取配当金	3,057	3,361
受取賃貸料	4,776	4,680
受取手数料	2,682	2,186
受取保険金	4,654	265
その他	7,405	9,032
営業外収益合計	29,371	25,061
営業外費用		
支払利息	64,211	63,195
投資有価証券評価損	39,587	29,897
その他	3,639	4,187
営業外費用合計	107,437	97,280
経常利益	278,239	291,327

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>特別利益</b>		
貸倒引当金戻入額	-	3,373
子会社清算益	-	14,183
退職給付制度改定益	-	86,748
<b>特別利益合計</b>	-	104,305
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	<sup>2</sup> 1,166	<sup>2</sup> 470
投資有価証券評価損	3,372	75,767
会員権評価損	4,400	-
減損損失	<sup>3</sup> 6,439	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	26,795
<b>特別損失合計</b>	15,378	103,033
<b>税金等調整前当期純利益</b>	262,860	292,598
法人税、住民税及び事業税	160,578	156,122
法人税等調整額	65,316	35,901
<b>法人税等合計</b>	95,262	192,023
<b>少数株主損益調整前当期純利益</b>	-	100,574
少数株主利益	-	-
<b>当期純利益</b>	167,598	100,574

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	-	100,574
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	54,952
その他の包括利益合計	-	<sup>2</sup> 54,952
包括利益	-	<sub>1</sub> 155,527
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	-	155,527
少数株主に係る包括利益	-	-

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	886,000	886,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	886,000	886,000
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	968,090	968,090
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	968,090	968,090
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	2,685,043	2,792,677
当期変動額		
剰余金の配当	59,963	59,963
当期純利益	167,598	100,574
当期変動額合計	107,634	40,610
当期末残高	2,792,677	2,833,288
<b>自己株式</b>		
前期末残高	828	828
当期変動額		
自己株式の取得	-	241
当期変動額合計	-	241
当期末残高	828	1,070
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	4,538,304	4,645,938
当期変動額		
剰余金の配当	59,963	59,963
当期純利益	167,598	100,574
自己株式の取得	-	241
当期変動額合計	107,634	40,368
当期末残高	4,645,938	4,686,307



	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	79,815	54,059
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	25,756	54,952
当期変動額合計	25,756	54,952
当期末残高	54,059	893
<b>土地再評価差額金</b>		
前期末残高	1,284,003	1,284,003
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,284,003	1,284,003
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
前期末残高	1,363,819	1,338,063
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	25,756	54,952
当期変動額合計	25,756	54,952
当期末残高	1,338,063	1,283,110
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	3,174,484	3,307,875
当期変動額		
剰余金の配当	59,963	59,963
当期純利益	167,598	100,574
自己株式の取得	-	241
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	25,756	54,952
当期変動額合計	133,391	95,321
当期末残高	3,307,875	3,403,197

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	262,860	292,598
減価償却費	224,093	313,727
減損損失	6,439	-
賞与引当金の増減額（ は減少）	5,177	3,670
退職給付引当金の増減額（ は減少）	5,331	843
貸倒引当金の増減額（ は減少）	19,280	7,972
投資有価証券評価損益（ は益）	39,587	29,897
貸倒引当金戻入益	-	3,373
子会社清算損益（ は益）	-	14,183
退職給付制度改定益	-	86,748
固定資産除却損	1,166	470
投資有価証券評価損	3,372	75,767
会員権評価損	4,400	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	26,795
レンタル資産取得による支出	98,237	181,977
受取利息及び受取配当金	9,852	8,897
支払利息	64,211	63,195
売上債権の増減額（ は増加）	44,330	172,829
たな卸資産の増減額（ は増加）	25,779	254
仕入債務の増減額（ は減少）	62,309	81,339
未払消費税等の増減額（ は減少）	15,347	13,270
その他の流動資産の増減額（ は増加）	14,232	1,681
その他の流動負債の増減額（ は減少）	18,335	4,688
その他の固定資産の増減額（ は増加）	18,338	6,850
その他の固定負債の増減額（ は減少）	14,459	100
小計	584,821	573,640
利息及び配当金の受取額	9,976	8,980
利息の支払額	60,513	62,567
法人税等の支払額	43,833	218,172
法人税等の還付額	39,154	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	529,605	301,881

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	15,478	102,325
子会社の清算による収入	-	24,183
その他投資等の取得による支出	2,428	16,785
その他投資等の売却による収入	3,615	6,784
貸付けによる支出	6,350	2,300
貸付金の回収による収入	3,038	2,219
投資活動によるキャッシュ・フロー	17,603	88,224
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	2,290,000	2,007,500
短期借入金の返済による支出	2,300,000	2,012,500
長期借入れによる収入	800,000	350,000
長期借入金の返済による支出	950,000	540,000
リース債務の返済による支出	79,689	123,149
自己株式の取得による支出	-	241
配当金の支払額	60,101	60,125
財務活動によるキャッシュ・フロー	299,790	378,516
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	212,211	164,859
現金及び現金同等物の期首残高	2,536,093	2,748,304
現金及び現金同等物の期末残高	2,748,304	2,583,445

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>連結子会社は次の1社であります。 愛知フェンス工業株式会社 非連結子会社は次の1社であります。 東阪神株式会社</p> <p>(連結の範囲から除いた理由) 小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>	<p>連結子会社は次の1社であります。 愛知フェンス工業株式会社 非連結子会社は次の1社であります。 東阪神株式会社</p> <p>なお、当連結会計年度において、非連結子会社であった東阪神株式会社は平成23年3月28日に清算いたしました。 (連結の範囲から除いた理由) 同左</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>非連結子会社である東阪神(株)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため持分法の適用範囲から除外しております。</p>	同左
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>全ての連結子会社の事業年度末日と連結決算日は一致しております。</p>	同左
4. 会計処理基準に関する事項	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの...決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。 なお、組込デリバティブを区分して測定することが出来ない複合金融商品は、複合金融商品全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。 時価のないもの...移動平均法による原価法を採用しております。 たな卸資産 主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)で評価しております。</p>	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの...同左  時価のないもの...同左  たな卸資産 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法）によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <p>建物及び構築物 10～50年</p> <p>その他 2～24年</p> <p>無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>定額法によっております。</p> <p>なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>リース資産</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金</p> <p>債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金</p> <p>従業員に対する賞与支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。</p>	<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>同左</p> <p>無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>同左</p> <p>リース資産</p> <p>同左</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金</p> <p>同左</p> <p>賞与引当金</p> <p>同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	<p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、退職給付引当金の算出は簡便法によっておりますので、数理計算上の差異は認識しておりません。</p> <p>(4) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 当社グループの行っている金利スワップ取引は、金利スワップの特例処理の要件を満たすものであり、特例処理によっております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段...金利スワップ取引 ヘッジ対象...長期借入金の支払い金利 ヘッジ方針 将来の金利変動によるリスク回避を目的に行っており、投機的な取引は行わない方針であります。 ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して、キャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定することができるため、ヘッジ有効性の判定は省略しております。</p>	<p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。 なお、退職給付引当金の算出は簡便法によっておりますので、数理計算上の差異は認識しておりません。 (追加情報) 当社は、確定拠出年金法の施行に伴い、これまで退職給付制度として採用していた適格退職年金制度から、平成22年6月30日に確定拠出年金制度及び退職一時金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しております。 本移行に伴う影響額は、当連結会計年度の特別利益として86,748千円計上されております。</p> <p>(4) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 同左  ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段...同左 ヘッジ対象...同左  ヘッジ方針 同左  ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	<p>(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p>	<p>(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p> <p>(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p>
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	
6. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、営業利益及び経常利益は3,358千円減少し、税金等調整前当期純利益は30,154千円減少しております。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	<p>(連結損益計算書)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p>

【追加情報】

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	<p>(包括利益の表示に関する会計基準)</p> <p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。</p>



【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																												
<p>1. 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">建物</td> <td style="text-align: right;">394,441千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">668,160千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,062,602千円</td> </tr> </table> <p>上記に対応する債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,361,000千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,900,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(1年内返済予定額を含む)</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,261,000千円</td> </tr> </table>	建物	394,441千円	土地	668,160千円	計	1,062,602千円	短期借入金	1,361,000千円	長期借入金	1,900,000千円	(1年内返済予定額を含む)		計	3,261,000千円	<p>1. 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">建物</td> <td style="text-align: right;">399,832千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">668,160千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,067,992千円</td> </tr> </table> <p>上記に対応する債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,356,000千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,710,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(1年内返済予定額を含む)</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,066,000千円</td> </tr> </table>	建物	399,832千円	土地	668,160千円	計	1,067,992千円	短期借入金	1,356,000千円	長期借入金	1,710,000千円	(1年内返済予定額を含む)		計	3,066,000千円
建物	394,441千円																												
土地	668,160千円																												
計	1,062,602千円																												
短期借入金	1,361,000千円																												
長期借入金	1,900,000千円																												
(1年内返済予定額を含む)																													
計	3,261,000千円																												
建物	399,832千円																												
土地	668,160千円																												
計	1,067,992千円																												
短期借入金	1,356,000千円																												
長期借入金	1,710,000千円																												
(1年内返済予定額を含む)																													
計	3,066,000千円																												
<p>2. 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69条)第16条に規定する地価税の課税価額の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定しております。</p> <p>再評価実施日 平成14年3月31日</p> <p>再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額</p> <p style="text-align: right;">183,785千円</p>	<p>2. 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69条)第16条に規定する地価税の課税価額の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定しております。</p> <p>再評価実施日 平成14年3月31日</p> <p>再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額</p> <p style="text-align: right;">253,129千円</p>																												
<p>3. 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。</p> <p>投資有価証券(株式) 10,000千円</p>	<p>3.</p>																												
<p>4. 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。</p>	<p>4. 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。</p>																												

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)																								
<p>1. 一般管理費に含まれる研究開発費 7千円</p> <p>2. 固定資産除却損は、支店営業所廃止によるものであります。 固定資産等廃棄費用 1,166千円</p> <p>3. 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> <th style="text-align: center;">減損損失</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岩手県矢巾町 (盛岡営業所)</td> <td>営業拠点</td> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">693千円</td> </tr> <tr> <td>福岡県粕屋町 (福岡支店)</td> <td>営業拠点</td> <td>建物 その他</td> <td style="text-align: right;">2,438千円 914千円</td> </tr> <tr> <td>福岡県筑後市 (久留米営業所)</td> <td>営業拠点</td> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">301千円</td> </tr> <tr> <td>熊本県熊本市 (熊本営業所)</td> <td>営業拠点</td> <td>建物 その他</td> <td style="text-align: right;">116千円 1,411千円</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県鹿児島市 (鹿児島営業所)</td> <td>営業拠点</td> <td>建物 その他</td> <td style="text-align: right;">58千円 505千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>資産のグルーピングは、営業拠点の区分を基本単位としております。 営業活動から生じる損益が継続してマイナスである営業拠点について、資産グループの固定資産簿価を全額回収できる可能性が低いと判断した資産グループの帳簿価額を、回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失(6,439千円)として特別損失に計上しました。 なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却可能価額により測定しており、時価が入手できないものは保守的に回収可能価額を0として評価しております。</p> <p>4. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">5,407千円</p>	場所	用途	種類	減損損失	岩手県矢巾町 (盛岡営業所)	営業拠点	その他	693千円	福岡県粕屋町 (福岡支店)	営業拠点	建物 その他	2,438千円 914千円	福岡県筑後市 (久留米営業所)	営業拠点	その他	301千円	熊本県熊本市 (熊本営業所)	営業拠点	建物 その他	116千円 1,411千円	鹿児島県鹿児島市 (鹿児島営業所)	営業拠点	建物 その他	58千円 505千円	<p>1. 一般管理費に含まれる研究開発費 785千円</p> <p>2. 固定資産除却損は、支店営業所移転によるものであります。 固定資産等廃棄費用 470千円</p> <p>3.</p> <p>4. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">6,932千円</p>
場所	用途	種類	減損損失																						
岩手県矢巾町 (盛岡営業所)	営業拠点	その他	693千円																						
福岡県粕屋町 (福岡支店)	営業拠点	建物 その他	2,438千円 914千円																						
福岡県筑後市 (久留米営業所)	営業拠点	その他	301千円																						
熊本県熊本市 (熊本営業所)	営業拠点	建物 その他	116千円 1,411千円																						
鹿児島県鹿児島市 (鹿児島営業所)	営業拠点	建物 その他	58千円 505千円																						

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益

親会社株主に係る包括利益 193,354千円

少数株主に係る包括利益 -

計 193,354千円

2. 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益

その他有価証券評価差額金 25,756千円

計 25,756千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	5,000	-	-	5,000
合計	5,000	-	-	5,000
自己株式				
普通株式	3	-	-	3
合計	3	-	-	3

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月29日 定時株主総会	普通株式	59,963	12	平成21年3月31日	平成21年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	59,963	利益剰余金	12	平成22年3月31日	平成22年6月30日

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	5,000	-	-	5,000
合計	5,000	-	-	5,000
自己株式				
普通株式(注)	3	0	-	3
合計	3	0	-	3

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加0千株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	59,963	12	平成22年3月31日	平成22年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	59,952	利益剰余金	12	平成23年3月31日	平成23年6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)	現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係 (平成23年3月31日現在)
現金及び預金勘定 預入期間が3ヶ月を 超える定期預金 現金及び現金同等物	現金及び預金勘定 預入期間が3ヶ月を 超える定期預金 現金及び現金同等物
2,748,304千円 - 千円 <u>2,748,304千円</u>	2,583,445千円 - 千円 <u>2,583,445千円</u>

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)																																																																								
<p>1. ファイナンス・リース取引</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>リース資産の内容</p> <p>有形固定資産</p> <p>レンタル事業におけるレンタル商品であります。</p> <p>リース資産の減価償却の方法</p> <p>連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p> <p>「4. 会計処理基準に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>77,775</td> <td>58,769</td> <td>19,005</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>30,938</td> <td>26,020</td> <td>4,918</td> </tr> <tr> <td>レンタル資産</td> <td>181,623</td> <td>130,181</td> <td>51,442</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>4,970</td> <td>3,205</td> <td>1,764</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>295,307</td> <td>218,176</td> <td>77,131</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等</p> <p>未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>40,905千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>47,413千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>88,318千円</td> </tr> </table> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td>110,052千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>99,142千円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td>3,756千円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	車両運搬具	77,775	58,769	19,005	工具、器具及び備品	30,938	26,020	4,918	レンタル資産	181,623	130,181	51,442	ソフトウェア	4,970	3,205	1,764	合計	295,307	218,176	77,131	1年内	40,905千円	1年超	47,413千円	合計	88,318千円	支払リース料	110,052千円	減価償却費相当額	99,142千円	支払利息相当額	3,756千円	<p>1. ファイナンス・リース取引</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>リース資産の内容</p> <p>同左</p> <p>リース資産の減価償却の方法</p> <p>同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>39,140</td> <td>27,230</td> <td>11,909</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>5,252</td> <td>4,402</td> <td>850</td> </tr> <tr> <td>レンタル資産</td> <td>106,273</td> <td>80,508</td> <td>25,764</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>4,970</td> <td>4,199</td> <td>770</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>155,636</td> <td>116,341</td> <td>39,295</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等</p> <p>未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>29,472千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>16,225千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>45,697千円</td> </tr> </table> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td>42,360千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>34,299千円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td>1,695千円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法</p> <p>同左</p>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	車両運搬具	39,140	27,230	11,909	工具、器具及び備品	5,252	4,402	850	レンタル資産	106,273	80,508	25,764	ソフトウェア	4,970	4,199	770	合計	155,636	116,341	39,295	1年内	29,472千円	1年超	16,225千円	合計	45,697千円	支払リース料	42,360千円	減価償却費相当額	34,299千円	支払利息相当額	1,695千円
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																																																																						
車両運搬具	77,775	58,769	19,005																																																																						
工具、器具及び備品	30,938	26,020	4,918																																																																						
レンタル資産	181,623	130,181	51,442																																																																						
ソフトウェア	4,970	3,205	1,764																																																																						
合計	295,307	218,176	77,131																																																																						
1年内	40,905千円																																																																								
1年超	47,413千円																																																																								
合計	88,318千円																																																																								
支払リース料	110,052千円																																																																								
減価償却費相当額	99,142千円																																																																								
支払利息相当額	3,756千円																																																																								
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																																																																						
車両運搬具	39,140	27,230	11,909																																																																						
工具、器具及び備品	5,252	4,402	850																																																																						
レンタル資産	106,273	80,508	25,764																																																																						
ソフトウェア	4,970	4,199	770																																																																						
合計	155,636	116,341	39,295																																																																						
1年内	29,472千円																																																																								
1年超	16,225千円																																																																								
合計	45,697千円																																																																								
支払リース料	42,360千円																																																																								
減価償却費相当額	34,299千円																																																																								
支払利息相当額	1,695千円																																																																								

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)												
<p>(5) 利息相当額の算定方法</p> <p>リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法につきましては、利息法によっております。</p> <p>(減損損失について)</p> <p>リース資産に配分された減損損失はありません。</p> <p>2. オペレーティング・リース取引</p> <p>オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,830千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">6,229千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">8,059千円</td> </tr> </table>	1年内	1,830千円	1年超	6,229千円	合計	8,059千円	<p>(5) 利息相当額の算定方法</p> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>(減損損失について)</p> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>2. オペレーティング・リース取引</p> <p>オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,830千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">4,399千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">6,229千円</td> </tr> </table>	1年内	1,830千円	1年超	4,399千円	合計	6,229千円
1年内	1,830千円												
1年超	6,229千円												
合計	8,059千円												
1年内	1,830千円												
1年超	4,399千円												
合計	6,229千円												

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については預金及び有価証券等の安全性の高い金融商品に限定しており、売買益を目的にするような投機的な取引は行わない方針であります。複合金融商品についても、リスクの高い投機的な取引は行わない方針であります。

また、資金調達については、設備計画や予算計画を勘案し必要な資金を銀行借入により調達し、借入金に係る金利変動リスクを軽減する目的に、金利スワップ取引を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクについて、与信限度額の設定、回収条件の不履行のモニタリングなどの与信管理を行っております。

投資有価証券については、その他有価証券であり市場価格の変動リスクに晒されておりますが、当該リスクに関しては定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、適正な対応をするようにしております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資や在庫資金としての資金調達であります。このうち一部の借入金については、金利変動リスクに晒されておりますが、借入金のほとんどが固定金利であり、また、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしているため、変動リスクは軽微であります。

デリバティブ取引は、金利スワップ及びデリバティブを組み込んだ複合金融商品を利用しております。

金利スワップ取引は、市場金利の変動から生じる市場リスクを有しておりますが、信用度の高い銀行であるため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

複合金融商品は、為替相場の変動によるリスク及び償還時の為替相場の変動による元本毀損リスク等があります。

これらのリスク管理として、経理部において取引の実行、取引の内容確認、リスク管理がなされており、担当役員まで報告されております。

また、一定額以上の取引については取締役会に報告されております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2.参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,748,304	2,748,304	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,090,664	2,090,664	-
(3) 投資有価証券	369,859	369,859	-
資産計	5,208,829	5,208,829	-
(1) 支払手形及び買掛金	833,245	833,245	-
(2) 短期借入金	1,686,000	1,686,000	-
(3) リース債務(流動負債)	104,016	111,554	7,537
(4) 長期借入金(1年内返済予定を含む)	1,900,000	1,914,345	14,345
(5) リース債務(固定負債)	329,135	323,375	5,759
負債計	4,852,398	4,868,521	16,123
デリバティブ取引	-	-	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関より提示された価格等に基づき算定しております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項(有価証券関係)をご参照下さい。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) リース債務(流動負債)、(4) 長期借入金、(5) リース債務(固定負債)

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項(デリバティブ取引関係)をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	17,000

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,738,678	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,090,664	-	-	-
投資有価証券				
其他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
(3) その他(注)	-	-	-	300,000
合計	4,829,343	-	-	300,000

(注) 早期償還条項が付与されております。

4. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。



当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については預金及び有価証券等の安全性の高い金融商品に限定しており、売買益を目的にするような投機的な取引は行わない方針であります。複合金融商品についても、リスクの高い投機的な取引は行わない方針であります。

また、資金調達については、設備計画や予算計画を勘案し必要な資金を銀行借入により調達し、借入金に係る金利変動リスクを軽減する目的に、金利スワップ取引を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクについて、与信限度額の設定、回収条件の不履行のモニタリングなどの与信管理を行っております。

投資有価証券については、その他有価証券であり市場価格の変動リスクに晒されておりますが、当該リスクに関しては定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、適正な対応をするようにしております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資や在庫資金としての資金調達であります。このうち一部の借入金については、金利変動リスクに晒されておりますが、借入金のほとんどが固定金利であり、また、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしているため、変動リスクは軽微であります。

デリバティブ取引は、金利スワップ及びデリバティブを組み込んだ複合金融商品を利用しております。

金利スワップ取引は、市場金利の変動から生じる市場リスクを有しておりますが、信用度の高い銀行であるため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

複合金融商品は、為替相場の変動によるリスク及び償還時の為替相場の変動による元本毀損リスク等があります。

これらのリスク管理として、経理部において取引の実行、取引の内容確認、リスク管理がなされており、担当役員まで報告されております。

また、一定額以上の取引については取締役会に報告されております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2.参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,583,445	2,583,445	-
(2) 受取手形及び売掛金	1,917,835	1,917,835	-
(3) 投資有価証券	319,760	319,760	-
資産計	4,821,040	4,821,040	-
(1) 支払手形及び買掛金	766,569	766,569	-
(2) 短期借入金	1,681,000	1,681,000	-
(3) リース債務(流動負債)	140,450	146,706	6,256
(4) 長期借入金(1年内返済予定を含む)	1,710,000	1,718,986	8,986
(5) リース債務(固定負債)	349,725	339,886	9,838
負債計	4,647,744	4,653,149	5,404
デリバティブ取引	-	-	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関より提示された価格等に基づき算定しております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項(有価証券関係)をご参照下さい。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) リース債務(流動負債)、(4) 長期借入金、(5) リース債務(固定負債)

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項(デリバティブ取引関係)をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	7,000

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,575,024	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,917,835	-	-	-
投資有価証券				
其他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
(3) その他(注)	-	-	-	300,000
合計	4,492,859	-	-	300,000

(注) 早期償還条項が付与されております。

4. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成22年3月31日)

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	13,778	9,859	3,919
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	13,778	9,859	3,919
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	167,350	225,329	57,979
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	188,730	300,000	111,270
	(3) その他	-	-	-
	小計	356,080	525,329	169,249
合計		369,859	535,189	165,329

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 17,000千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度においてその他有価証券で時価のある株式について3,372千円の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度において債券の「その他」に含まれる複合金融商品の時価評価を行い、投資有価証券評価損39,587千円を計上しております。なお「取得原価」には、評価損計上前の取得価額を記載しております。

当連結会計年度（平成23年3月31日）

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	9,626	6,047	3,578
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	9,626	6,047	3,578
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	151,301	153,373	2,072
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	158,833	300,000	141,167
	(3) その他	-	-	-
	小計	310,134	453,373	143,239
合計		319,760	459,421	139,661

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額 7,000千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度においてその他有価証券で時価のある株式について75,767千円の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度において債券の「その他」に含まれる複合金融商品の時価評価を行い、投資有価証券評価損29,897千円を計上しております。なお「取得原価」には、評価損計上前の取得価額を記載しております。

(デリバティブ取引関係)  
前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

	前連結会計年度(平成22年3月31日)			
	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時 価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引 複合金融商品(投資有価証券)	300,000	300,000	188,730	111,270
合計	300,000	300,000	188,730	111,270

- (注) 1. 時価の算定方法は、取引金融機関より提示された価格等に基づき算定しております。  
2. 評価損益については、組込デリバティブは時価の測定を合理的に区分して測定できないため、当該複合金融商品全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。  
3. 契約額等については、当該複合金融商品の額面金額を表示しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	前連結会計年度(平成22年3月31日)		
			契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特 例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	1,090,000	660,000	(注)

- (注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

	当連結会計年度(平成23年3月31日)			
	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時 価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引 複合金融商品(投資有価証券)	300,000	300,000	158,833	141,167
合計	300,000	300,000	158,833	141,167

- (注) 1. 時価の算定方法は、取引金融機関より提示された価格等に基づき算定しております。  
2. 評価損益については、組込デリバティブは時価の測定を合理的に区分して測定できないため、当該複合金融商品全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。  
3. 契約額等については、当該複合金融商品の額面金額を表示しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成23年3月31日)		
			契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特 例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	710,000	240,000	(注)

- (注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)																																
<p>1. 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、昭和42年5月1日より従業員退職金の100%について、適格退職年金制度を採用しております。なお、退職給付引当金の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p> <p>2. 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1)退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">358,868千円</td> </tr> <tr> <td>(2)年金資産</td> <td style="text-align: right;">219,429千円</td> </tr> <tr> <td>(3)未積立退職給付債務(1) + (2)</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">139,439千円</td> </tr> <tr> <td>(4)連結貸借対照表計上額純額</td> <td style="text-align: right;">139,439千円</td> </tr> <tr> <td>(5)前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">-千円</td> </tr> <tr> <td>(6)退職給付引当金 (4) - (5)</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">139,439千円</td> </tr> </table> <p>3. 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1)勤務費用</td> <td style="text-align: right;">39,884千円</td> </tr> <tr> <td>(2)退職給付費用</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">39,884千円</td> </tr> </table>	(1)退職給付債務	358,868千円	(2)年金資産	219,429千円	(3)未積立退職給付債務(1) + (2)	139,439千円	(4)連結貸借対照表計上額純額	139,439千円	(5)前払年金費用	-千円	(6)退職給付引当金 (4) - (5)	139,439千円	(1)勤務費用	39,884千円	(2)退職給付費用	39,884千円	<p>1. 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、確定給付型の制度としての適格退職年金制度を設けていましたが、平成22年6月30日付で適格退職年金制度を、確定拠出年金制度及び退職一時金制度に移行いたしました。なお、当社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p> <p>2. 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">51,847千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">51,847千円</td> </tr> </table> <p>(注) 適格退職年金制度から確定拠出年金制度及び退職一時金制度への移行に伴う影響額は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務の減少</td> <td style="text-align: right;">294,246千円</td> </tr> <tr> <td>年金資産の減少</td> <td style="text-align: right;">207,497千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金の減少</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">86,748千円</td> </tr> </table> <p>また、確定拠出年金制度への資産移換額は207,497千円であり、平成23年8月に一括移換しております。</p> <p>3. 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">17,326千円</td> </tr> <tr> <td>確定拠出年金への掛金支払額</td> <td style="text-align: right;">14,010千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">31,337千円</td> </tr> </table> <p>(注) 適格退職年金制度から確定拠出年金制度及び退職一時金制度への移行に伴い186,748千円を特別利益に「退職給付制度改定益」として計上しております。</p> <p>4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>当社は、退職給付債務等の算定にあたり、簡便法を採用しておりますので、基礎率等については記載しておりません。</p>	退職給付債務	51,847千円	退職給付引当金	51,847千円	退職給付債務の減少	294,246千円	年金資産の減少	207,497千円	退職給付引当金の減少	86,748千円	勤務費用	17,326千円	確定拠出年金への掛金支払額	14,010千円	合計	31,337千円
(1)退職給付債務	358,868千円																																
(2)年金資産	219,429千円																																
(3)未積立退職給付債務(1) + (2)	139,439千円																																
(4)連結貸借対照表計上額純額	139,439千円																																
(5)前払年金費用	-千円																																
(6)退職給付引当金 (4) - (5)	139,439千円																																
(1)勤務費用	39,884千円																																
(2)退職給付費用	39,884千円																																
退職給付債務	51,847千円																																
退職給付引当金	51,847千円																																
退職給付債務の減少	294,246千円																																
年金資産の減少	207,497千円																																
退職給付引当金の減少	86,748千円																																
勤務費用	17,326千円																																
確定拠出年金への掛金支払額	14,010千円																																
合計	31,337千円																																

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)  
該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)  
該当事項はありません。

( 税効果会計関係 )

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
繰延税金資産(流動)		
貸倒引当金	270千円	- 千円
未払事業税	11,319千円	6,852千円
賞与引当金分社会保険料	3,756千円	3,664千円
賞与引当金	29,333千円	27,959千円
棚卸資産(未実現利益)	7,506千円	8,138千円
棚卸資産評価損	24,205千円	27,180千円
その他	7,195千円	8,922千円
繰延税金資産小計	83,587千円	82,718千円
評価性引当額	20,603千円	23,619千円
繰延税金資産合計	62,983千円	59,099千円
繰延税金資産(固定)		
貸倒引当金	4,472千円	3,706千円
退職給付引当金	56,737千円	21,096千円
長期未払金	29,378千円	29,378千円
投資有価証券評価損	46,699千円	87,424千円
会員権評価損	7,817千円	7,817千円
資産除去債務	- 千円	12,180千円
減損損失	4,154千円	3,624千円
その他有価証券評価差額金	21,996千円	- 千円
繰延税金資産小計	171,256千円	165,228千円
評価性引当額	114,518千円	140,507千円
繰延税金資産合計	56,737千円	24,721千円
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	- 千円	612千円
繰延税金負債合計	- 千円	612千円
繰延税金資産の純額	119,721千円	83,207千円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度(平成22年3月31日)

法定実効税率	40.7%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.4%
住民税均等割等	9.2%
評価性引当額	15.7%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.2%
子会社税率差異	0.5%
その他	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.2%

当連結会計年度(平成23年3月31日)

法定実効税率	40.7%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.9%
住民税均等割等	8.7%
評価性引当額	16.8%
子会社清算配当金	2.0%
子会社税率差異	0.1%
その他	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	65.6%



(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

当社グループは、前連結会計年度において標識・標示板、安全機材、保安警告サイン、安全防災用品及びその他工事用品等を販売、レンタルしており当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

【所在地別セグメント情報】

当社グループは、前連結会計年度において本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため該当事項はありません。

【海外売上高】

当社グループは、前連結会計年度において海外売上高がないため該当事項はありません。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっております。

当社グループは、土木工事事業の販売及びレンタルを全国展開しております。従って単一事業ではありませんが、取締役会において、営業統括責任範囲を東日本エリアと西日本エリアとしておりますので、この2エリアを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結財務諸表計 上額 (注)2
	東日本エリア	西日本エリア	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,744,529	3,354,075	7,098,604	-	7,098,604
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,342	10,569	28,911	28,911	-
計	3,762,871	3,364,644	7,127,515	28,911	7,098,604
セグメント利益	264,803	341,122	605,926	249,621	356,305
セグメント資産	2,549,155	1,801,383	4,350,539	4,536,540	8,887,080
その他の項目					
減価償却費	24,969	9,870	34,839	189,253	224,093
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	5,370	2,799	8,169	404,432	412,601

(注)1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 249,621千円は、全社費用のうち配賦の困難な費用であります。
  - (2) セグメント資産の調整額4,536,540千円は、主に報告セグメントに帰属しない本社資産であります。
  - (3) その他の項目の有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額404,432千円は、主に報告セグメントに帰属しない本社資産であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表計 上額 (注) 2
	東日本エリア	西日本エリア	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,422,013	3,287,540	6,709,554	-	6,709,554
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,931	15,751	31,682	31,682	-
計	3,437,944	3,303,291	6,741,236	31,682	6,709,554
セグメント利益	171,468	370,538	542,007	178,461	363,546
セグメント資産	2,499,820	1,721,921	4,221,742	4,384,584	8,606,327
その他の項目					
減価償却費	25,024	10,116	35,140	278,586	313,727
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	90,005	6,976	96,982	384,223	481,206

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 178,461千円は、全社費用のうち配賦の困難な費用であります。
  - (2) セグメント資産の調整額4,384,584千円は、主に報告セグメントに帰属しない本社資産であります。
  - (3) その他の項目の有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額384,223千円は、主に報告セグメントに帰属しない本社資産であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区別の外部顧客への売上高が全てであるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）

該当事項はありません。

（追加情報）

当連結会計年度（自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日）

当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年 3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年 3月21日）を適用しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成21年 4月 1日 至平成22年 3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

前連結会計年度 （自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日）	当連結会計年度 （自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）
1株当たり純資産額 661円97銭	1株当たり純資産額 681円18銭
1株当たり当期純利益 33円54銭	1株当たり当期純利益 20円13銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注） 1株当たり当期純損益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日）	当連結会計年度 （自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）
当期純利益（千円）	167,598	100,574
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（千円）	167,598	100,574
期中平均株式数（株）	4,996,991	4,996,406

（重要な後発事象）

前連結会計年度 （自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日）	当連結会計年度 （自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）
<p>（退職給付制度の移行）</p> <p>平成22年 5月 7日開催の取締役会において、確定拠出年金法の施行に伴い、これまで退職給付制度として採用していた適格退職年金制度から、平成22年 6月30日に確定拠出年金制度及び退職一時金制度へ移行することを決議いたしました。</p> <p>この移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号）を適用する予定であります。これにより、翌連結会計年度において特別利益約85百万円を計上する見込みであります。</p>	

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,686,000	1,681,000	1.2	-
1年以内に返済予定の長期借入金	540,000	730,000	1.8	-
1年以内に返済予定のリース債務	104,016	140,450	2.1	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,360,000	980,000	1.7	平成24年～26年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	329,135	349,725	2.1	平成24年～28年
合計	4,019,152	3,881,175	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	695,000	240,000	45,000	-
リース債務	142,758	131,041	60,684	15,240

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高(千円)	1,433,000	1,633,408	1,927,402	1,715,742
税金等調整前四半期純利益 金額又は税金等調整前四半 期純損失金額( ) (千円)	31,722	68,901	131,060	124,359
四半期純利益金額又は四半 期純損失金額( ) (千円)	38,640	30,760	57,198	51,255
1株当たり四半期純利益金 額又は1株当たり四半期純 損失金額( )(円)	7.73	6.16	11.45	10.26

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,522,548	2,359,064
受取手形	809,586	749,504
売掛金	1,279,602	1,167,041
商品	604,934	631,941
前払費用	33,001	33,965
未収収益	815	570
繰延税金資産	51,853	44,613
その他	873	887
貸倒引当金	19,400	15,600
流動資産合計	5,283,814	4,971,987
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,582,616	1,671,115
減価償却累計額	3 993,417	3 1,026,718
建物(純額)	1 589,198	1 644,397
構築物	91,109	104,309
減価償却累計額	3 64,472	3 68,957
構築物(純額)	26,636	35,351
機械及び装置	6,416	6,416
減価償却累計額	3 5,840	3 5,956
機械及び装置(純額)	575	459
車両運搬具	54,279	57,777
減価償却累計額	3 51,835	3 51,703
車両運搬具(純額)	2,443	6,073
工具、器具及び備品	111,991	112,105
減価償却累計額	3 95,409	3 100,300
工具、器具及び備品(純額)	16,581	11,805
レンタル資産	875,341	932,774
減価償却累計額	755,898	757,716
レンタル資産(純額)	119,443	175,058
土地	1, 2 1,287,446	1, 2 1,287,446
リース資産	521,084	700,310
減価償却累計額	94,456	218,554
リース資産(純額)	426,627	481,755
有形固定資産合計	2,468,953	2,642,349
無形固定資産		
電話加入権	7,938	7,938
ソフトウェア	4,543	3,177
その他	2,075	1,764
無形固定資産合計	14,557	12,880

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	376,859	326,760
関係会社株式	21,300	11,300
出資金	10	10
従業員長期貸付金	6,297	6,378
破産更生債権等	26,026	19,176
長期前払費用	-	55
会員権	3,750	3,750
保険積立金	9,443	9,999
敷金及び保証金	133,445	115,839
繰延税金資産	56,737	24,108
貸倒引当金	25,763	18,217
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>608,106</b>	<b>499,159</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>3,091,617</b>	<b>3,154,388</b>
<b>資産合計</b>	<b>8,375,432</b>	<b>8,126,376</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	522,983	475,914
買掛金	4 223,604	4 246,644
短期借入金	1 1,361,000	1 1,356,000
1年内返済予定の長期借入金	1 540,000	1 730,000
リース債務	104,016	140,450
未払金	2,547	3,182
未払費用	123,347	117,066
未払法人税等	135,134	68,883
未払消費税等	25,036	13,786
前受金	4,468	9,643
預り金	7,062	7,322
前受収益	903	693
賞与引当金	69,312	65,828
<b>流動負債合計</b>	<b>3,119,416</b>	<b>3,235,414</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1 1,360,000	1 980,000
リース債務	329,135	349,725
長期未払金	72,199	72,199
再評価に係る繰延税金負債	2 126,530	2 126,530
退職給付引当金	139,439	51,847
その他	579	479
<b>固定負債合計</b>	<b>2,027,884</b>	<b>1,580,781</b>
<b>負債合計</b>	<b>5,147,300</b>	<b>4,816,196</b>

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	886,000	886,000
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	968,090	968,090
資本剰余金合計	968,090	968,090
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	56,023	56,023
<b>その他利益剰余金</b>		
別途積立金	2,487,000	2,577,000
繰越利益剰余金	169,910	107,248
利益剰余金合計	2,712,933	2,740,272
自己株式	828	1,070
株主資本合計	4,566,194	4,593,291
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	54,059	893
土地再評価差額金	<sup>2</sup> 1,284,003	<sup>2</sup> 1,284,003
評価・換算差額等合計	1,338,063	1,283,110
<b>純資産合計</b>	<b>3,228,131</b>	<b>3,310,180</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>8,375,432</b>	<b>8,126,376</b>

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>売上高</b>		
商品売上高	4,151,386	3,846,329
レンタル売上高	2,935,395	2,852,895
売上高合計	7,086,782	6,699,225
<b>売上原価</b>		
商品売上原価		
商品期首たな卸高	614,485	604,934
当期商品仕入高	2 3,650,808	2 3,360,577
合計	4,265,294	3,965,511
商品他勘定振替高	1 874,059	1 751,604
商品期末たな卸高	6 604,934	6 631,941
商品売上原価	2,786,300	2,581,964
レンタル売上原価	1,027,736	865,281
売上原価合計	3,814,037	3,447,246
<b>売上総利益</b>	3,272,745	3,251,979
<b>販売費及び一般管理費</b>		
運搬費	433,643	418,304
貸倒引当金繰入額	7,024	11,190
役員報酬	67,560	71,790
従業員給料及び賞与	1,194,087	1,168,893
賞与引当金繰入額	69,312	65,828
退職給付費用	39,884	31,337
福利厚生費	216,389	220,690
通信・交通費	109,411	107,816
消耗品費	51,639	53,550
賃借料	372,240	380,758
減価償却費	58,832	62,498
その他	3 346,013	3 345,467
販売費及び一般管理費合計	2,966,038	2,938,126
<b>営業利益</b>	306,706	313,852
<b>営業外収益</b>		
受取利息	6,780	5,527
受取配当金	3,057	3,361
受取賃貸料	2 10,776	2 10,680
受取手数料	2 14,682	2 14,186
受取保険金	4,654	265
その他	6,459	7,798
営業外収益合計	46,411	41,819
<b>営業外費用</b>		
支払利息	59,464	59,168
投資有価証券評価損	39,587	29,897
その他	1,996	2,144
営業外費用合計	101,048	91,209
<b>経常利益</b>	252,070	264,461



	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)
<b>特別利益</b>		
貸倒引当金戻入額	-	3,373
子会社清算益	-	14,183
退職給付制度改定益	-	86,748
特別利益合計	-	104,305
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	<sup>4</sup> 1,166	<sup>4</sup> 470
投資有価証券評価損	3,372	75,767
会員権評価損	4,400	-
減損損失	<sup>5</sup> 6,439	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	23,646
特別損失合計	15,378	99,884
税引前当期純利益	236,691	268,881
法人税、住民税及び事業税	149,396	142,322
法人税等調整額	64,488	39,256
法人税等合計	84,908	181,579
当期純利益	151,783	87,302

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	886,000	886,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	886,000	886,000
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	968,090	968,090
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	968,090	968,090
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	968,090	968,090
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	968,090	968,090
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	56,023	56,023
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	56,023	56,023
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	2,537,000	2,487,000
当期変動額		
別途積立金の積立	-	90,000
別途積立金の取崩	50,000	-
当期変動額合計	50,000	90,000
当期末残高	2,487,000	2,577,000
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	28,090	169,910
当期変動額		
別途積立金の積立	-	90,000
別途積立金の取崩	50,000	-
剰余金の配当	59,963	59,963
当期純利益	151,783	87,302
当期変動額合計	141,819	62,661
当期末残高	169,910	107,248
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	2,621,114	2,712,933
当期変動額		
剰余金の配当	59,963	59,963
当期純利益	151,783	87,302
当期変動額合計	91,819	27,338
当期末残高	2,712,933	2,740,272

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>自己株式</b>		
前期末残高	828	828
当期変動額		
自己株式の取得	-	241
当期変動額合計	-	241
当期末残高	828	1,070
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	4,474,375	4,566,194
当期変動額		
剰余金の配当	59,963	59,963
当期純利益	151,783	87,302
自己株式の取得	-	241
当期変動額合計	91,819	27,096
当期末残高	4,566,194	4,593,291
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	79,815	54,059
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	25,756	54,952
当期変動額合計	25,756	54,952
当期末残高	54,059	893
<b>土地再評価差額金</b>		
前期末残高	1,284,003	1,284,003
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,284,003	1,284,003
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	1,363,819	1,338,063
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	25,756	54,952
当期変動額合計	25,756	54,952
当期末残高	1,338,063	1,283,110
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	3,110,555	3,228,131
当期変動額		
剰余金の配当	59,963	59,963
当期純利益	151,783	87,302
自己株式の取得	-	241
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	25,756	54,952
当期変動額合計	117,575	82,049
当期末残高	3,228,131	3,310,180

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)										
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの...決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。 なお、組込デリバティブを区分して測定することが出来ない複合金融商品は、複合金融商品全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。 時価のないもの...移動平均法による原価法を採用しております。</p>	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの...同左</p> <p>時価のないもの...同左</p>										
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法	<p>商品 移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)で評価しております。</p>	<p>商品 同左</p>										
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法)によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="523 1137 906 1339"> <tr><td>建物</td><td>10～50年</td></tr> <tr><td>構築物</td><td>10～30年</td></tr> <tr><td>機械及び装置</td><td>6～12年</td></tr> <tr><td>車両運搬具</td><td>4～6年</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td>2～20年</td></tr> </table> <p>レンタル資産 3～5年</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法によっております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。</p>	建物	10～50年	構築物	10～30年	機械及び装置	6～12年	車両運搬具	4～6年	工具、器具及び備品	2～20年	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p>
建物	10～50年											
構築物	10～30年											
機械及び装置	6～12年											
車両運搬具	4～6年											
工具、器具及び備品	2～20年											

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	<p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>(3) リース資産 同左</p>
4. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に対する賞与支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、退職給付引当金の算出は簡便法によっておりますので、数理計算上の差異は認識しておりません。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。 なお、退職給付引当金の算出は簡便法によっておりますので、数理計算上の差異は認識しておりません。 (追加情報) 当社は、確定拠出年金法の施行に伴い、これまで退職給付制度として採用していた適格退職年金制度から、平成22年6月30日に確定拠出年金制度及び退職一時金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しております。 本移行に伴う影響額は、当事業年度の特別利益として86,748千円計上されております。</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
5. ヘッジ会計の方法	<p>ヘッジ会計の方法</p> <p>当社の行っている金利スワップ取引は、金利スワップの特例処理の要件を満たすものであり、特例処理によりあります。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段...金利スワップ取引</p> <p>ヘッジ対象...長期借入金の支払い 金利</p> <p>ヘッジ方針</p> <p>将来の金利変動によるリスク回避を目的に行っており、投機的な取引は行わない方針であります。</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法</p> <p>ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して、キャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定することができるため、ヘッジ有効性の判定は省略しております。</p>	<p>ヘッジ会計の方法</p> <p>同左</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段...同左</p> <p>ヘッジ対象...同左</p> <p>ヘッジ方針</p> <p>同左</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法</p> <p>同左</p>
6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 消費税等の会計処理 税抜方式を採用しております。	(1) 消費税等の会計処理 同左

【会計処理方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用)</p> <p>当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、営業利益及び経常利益は2,731千円減少し、税引前当期純利益は26,378千円減少しております。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																												
<p>1. 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">建物</td> <td style="text-align: right;">394,441千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">668,160千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,062,602千円</td> </tr> </table> <p>上記に対応する債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,361,000千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,900,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(1年内返済予定額を含む) 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,261,000千円</td> </tr> </table> <p>2. 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69条)第16条に規定する地価税の課税価額の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定しております。</p> <p>再評価実施日 平成14年3月31日</p> <p>再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額</p> <p style="text-align: right;">183,785千円</p> <p>3. 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。</p> <p>4. 関係会社に対する主な資産、負債</p> <p>区分掲記した以外で各科目に含まれている主なものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">買掛金</td> <td style="text-align: right;">10,677千円</td> </tr> </table>	建物	394,441千円	土地	668,160千円	計	1,062,602千円	短期借入金	1,361,000千円	長期借入金	1,900,000千円	(1年内返済予定額を含む) 計	3,261,000千円	買掛金	10,677千円	<p>1. 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">建物</td> <td style="text-align: right;">399,832千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">668,160千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,067,992千円</td> </tr> </table> <p>上記に対応する債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,356,000千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,710,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(1年内返済予定額を含む) 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,066,000千円</td> </tr> </table> <p>2. 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69条)第16条に規定する地価税の課税価額の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定しております。</p> <p>再評価実施日 平成14年3月31日</p> <p>再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額</p> <p style="text-align: right;">253,129千円</p> <p>3. 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。</p> <p>4. 関係会社に対する主な資産、負債</p> <p>区分掲記した以外で各科目に含まれている主なものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">買掛金</td> <td style="text-align: right;">28,299千円</td> </tr> </table>	建物	399,832千円	土地	668,160千円	計	1,067,992千円	短期借入金	1,356,000千円	長期借入金	1,710,000千円	(1年内返済予定額を含む) 計	3,066,000千円	買掛金	28,299千円
建物	394,441千円																												
土地	668,160千円																												
計	1,062,602千円																												
短期借入金	1,361,000千円																												
長期借入金	1,900,000千円																												
(1年内返済予定額を含む) 計	3,261,000千円																												
買掛金	10,677千円																												
建物	399,832千円																												
土地	668,160千円																												
計	1,067,992千円																												
短期借入金	1,356,000千円																												
長期借入金	1,710,000千円																												
(1年内返済予定額を含む) 計	3,066,000千円																												
買掛金	28,299千円																												

( 損益計算書関係 )

前事業年度 ( 自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日 )	当事業年度 ( 自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日 )																																																								
<p>1. 商品他勘定振替高の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">レンタル資産</td> <td style="text-align: right;">98,237千円</td> </tr> <tr> <td>レンタル売上原価</td> <td style="text-align: right;">773,370千円</td> </tr> <tr> <td>販売費及び一般管理費</td> <td style="text-align: right;">2,451千円</td> </tr> </table> <p>2. 関係会社との取引による主なものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">商品仕入高</td> <td style="text-align: right;">893,910千円</td> </tr> <tr> <td>受取賃貸料</td> <td style="text-align: right;">6,000千円</td> </tr> <tr> <td>受取手数料</td> <td style="text-align: right;">12,000千円</td> </tr> </table> <p>3. 一般管理費に含まれる研究開発費 7千円</p> <p>4. 固定資産除却損は、支店営業所廃止によるものであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">固定資産等廃棄費用</td> <td style="text-align: right;">1,166千円</td> </tr> </table> <p>5. 減損損失</p> <p>当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">場所</th> <th style="width: 20%;">用途</th> <th style="width: 20%;">種類</th> <th style="width: 40%;">減損損失</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岩手県矢巾町 (盛岡営業所)</td> <td>営業拠点</td> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">693千円</td> </tr> <tr> <td>福岡県粕屋町 (福岡支店)</td> <td>営業拠点</td> <td>建物 その他</td> <td style="text-align: right;">2,438千円 914千円</td> </tr> <tr> <td>福岡県筑後市 (久留米営業所)</td> <td>営業拠点</td> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">301千円</td> </tr> <tr> <td>熊本県熊本市 (熊本営業所)</td> <td>営業拠点</td> <td>建物 その他</td> <td style="text-align: right;">116千円 1,411千円</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県鹿児島市 (鹿児島営業所)</td> <td>営業拠点</td> <td>建物 その他</td> <td style="text-align: right;">58千円 505千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>資産のグルーピングは、営業拠点の区分を基本単位としております。</p> <p>営業活動から生じる損益が継続してマイナスである営業拠点について、資産グループの固定資産簿価を全額回収できる可能性が低いと判断した資産グループの帳簿価額を、回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失(6,439千円)として特別損失に計上しました。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却可能価額により測定しており、時価が入手できないものは保守的に回収可能価額を0として評価しております。</p> <p>6. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 70%;"></td> <td style="text-align: right;">4,403千円</td> </tr> </table>	レンタル資産	98,237千円	レンタル売上原価	773,370千円	販売費及び一般管理費	2,451千円	商品仕入高	893,910千円	受取賃貸料	6,000千円	受取手数料	12,000千円	固定資産等廃棄費用	1,166千円	場所	用途	種類	減損損失	岩手県矢巾町 (盛岡営業所)	営業拠点	その他	693千円	福岡県粕屋町 (福岡支店)	営業拠点	建物 その他	2,438千円 914千円	福岡県筑後市 (久留米営業所)	営業拠点	その他	301千円	熊本県熊本市 (熊本営業所)	営業拠点	建物 その他	116千円 1,411千円	鹿児島県鹿児島市 (鹿児島営業所)	営業拠点	建物 その他	58千円 505千円		4,403千円	<p>1. 商品他勘定振替高の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">レンタル資産</td> <td style="text-align: right;">181,977千円</td> </tr> <tr> <td>レンタル売上原価</td> <td style="text-align: right;">568,413千円</td> </tr> <tr> <td>販売費及び一般管理費</td> <td style="text-align: right;">1,213千円</td> </tr> </table> <p>2. 関係会社との取引による主なものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">商品仕入高</td> <td style="text-align: right;">828,568千円</td> </tr> <tr> <td>受取賃貸料</td> <td style="text-align: right;">6,000千円</td> </tr> <tr> <td>受取手数料</td> <td style="text-align: right;">12,000千円</td> </tr> </table> <p>3. 一般管理費に含まれる研究開発費 785千円</p> <p>4. 固定資産除却損は、支店営業所移転によるものであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">固定資産等廃棄費用</td> <td style="text-align: right;">470千円</td> </tr> </table> <p>5.</p> <p>6. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 70%;"></td> <td style="text-align: right;">4,542千円</td> </tr> </table>	レンタル資産	181,977千円	レンタル売上原価	568,413千円	販売費及び一般管理費	1,213千円	商品仕入高	828,568千円	受取賃貸料	6,000千円	受取手数料	12,000千円	固定資産等廃棄費用	470千円		4,542千円
レンタル資産	98,237千円																																																								
レンタル売上原価	773,370千円																																																								
販売費及び一般管理費	2,451千円																																																								
商品仕入高	893,910千円																																																								
受取賃貸料	6,000千円																																																								
受取手数料	12,000千円																																																								
固定資産等廃棄費用	1,166千円																																																								
場所	用途	種類	減損損失																																																						
岩手県矢巾町 (盛岡営業所)	営業拠点	その他	693千円																																																						
福岡県粕屋町 (福岡支店)	営業拠点	建物 その他	2,438千円 914千円																																																						
福岡県筑後市 (久留米営業所)	営業拠点	その他	301千円																																																						
熊本県熊本市 (熊本営業所)	営業拠点	建物 その他	116千円 1,411千円																																																						
鹿児島県鹿児島市 (鹿児島営業所)	営業拠点	建物 その他	58千円 505千円																																																						
	4,403千円																																																								
レンタル資産	181,977千円																																																								
レンタル売上原価	568,413千円																																																								
販売費及び一般管理費	1,213千円																																																								
商品仕入高	828,568千円																																																								
受取賃貸料	6,000千円																																																								
受取手数料	12,000千円																																																								
固定資産等廃棄費用	470千円																																																								
	4,542千円																																																								



(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式	3	-	-	3
合計	3	-	-	3

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式(注)	3	0	-	3
合計	3	0	-	3

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加0千円株であります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)																																																
<p>1. ファイナンス・リース取引</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>リース資産の内容</p> <p>有形固定資産</p> <p>レンタル事業におけるレンタル商品であります。</p> <p>リース資産の減価償却の方法</p> <p>重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額(千円)</th> <th>減価償却累計額相当額(千円)</th> <th>期末残高相当額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>71,069</td> <td>53,245</td> <td>17,823</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>30,938</td> <td>26,020</td> <td>4,918</td> </tr> <tr> <td>レンタル資産</td> <td>181,623</td> <td>130,181</td> <td>51,442</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>4,970</td> <td>3,205</td> <td>1,764</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>288,601</td> <td>212,653</td> <td>75,948</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額(千円)	減価償却累計額相当額(千円)	期末残高相当額(千円)	車両運搬具	71,069	53,245	17,823	工具、器具及び備品	30,938	26,020	4,918	レンタル資産	181,623	130,181	51,442	ソフトウェア	4,970	3,205	1,764	合計	288,601	212,653	75,948	<p>1. ファイナンス・リース取引</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>リース資産の内容</p> <p>同左</p> <p>リース資産の減価償却の方法</p> <p>同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額(千円)</th> <th>減価償却累計額相当額(千円)</th> <th>期末残高相当額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>34,955</td> <td>23,851</td> <td>11,103</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>5,252</td> <td>4,402</td> <td>850</td> </tr> <tr> <td>レンタル資産</td> <td>106,273</td> <td>80,508</td> <td>25,764</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>4,970</td> <td>4,199</td> <td>770</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>151,451</td> <td>112,962</td> <td>38,489</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額(千円)	減価償却累計額相当額(千円)	期末残高相当額(千円)	車両運搬具	34,955	23,851	11,103	工具、器具及び備品	5,252	4,402	850	レンタル資産	106,273	80,508	25,764	ソフトウェア	4,970	4,199	770	合計	151,451	112,962	38,489
	取得価額相当額(千円)	減価償却累計額相当額(千円)	期末残高相当額(千円)																																														
車両運搬具	71,069	53,245	17,823																																														
工具、器具及び備品	30,938	26,020	4,918																																														
レンタル資産	181,623	130,181	51,442																																														
ソフトウェア	4,970	3,205	1,764																																														
合計	288,601	212,653	75,948																																														
	取得価額相当額(千円)	減価償却累計額相当額(千円)	期末残高相当額(千円)																																														
車両運搬具	34,955	23,851	11,103																																														
工具、器具及び備品	5,252	4,402	850																																														
レンタル資産	106,273	80,508	25,764																																														
ソフトウェア	4,970	4,199	770																																														
合計	151,451	112,962	38,489																																														

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																																				
<p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">39,814千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">45,557千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">85,372千円</td> </tr> </table> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">108,535千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">98,210千円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">3,703千円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法 によっております。</p> <p>(5) 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額 を利息相当額とし、各期への配分方法につきましては、利 息法によっております。</p> <p>(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。</p> <p>2. オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のもの に係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">1,830千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">6,229千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">8,059千円</td> </tr> </table>	1年内	39,814千円	1年超	45,557千円	合計	85,372千円	支払リース料	108,535千円	減価償却費相当額	98,210千円	支払利息相当額	3,703千円	1年内	1,830千円	1年超	6,229千円	合計	8,059千円	<p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">28,364千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">15,477千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">43,842千円</td> </tr> </table> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">41,232千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">33,922千円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">1,658千円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>(5) 利息相当額の算定方法 同左</p> <p>(減損損失について) 同左</p> <p>2. オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のもの に係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">1,830千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">4,399千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,229千円</td> </tr> </table>	1年内	28,364千円	1年超	15,477千円	合計	43,842千円	支払リース料	41,232千円	減価償却費相当額	33,922千円	支払利息相当額	1,658千円	1年内	1,830千円	1年超	4,399千円	合計	6,229千円
1年内	39,814千円																																				
1年超	45,557千円																																				
合計	85,372千円																																				
支払リース料	108,535千円																																				
減価償却費相当額	98,210千円																																				
支払利息相当額	3,703千円																																				
1年内	1,830千円																																				
1年超	6,229千円																																				
合計	8,059千円																																				
1年内	28,364千円																																				
1年超	15,477千円																																				
合計	43,842千円																																				
支払リース料	41,232千円																																				
減価償却費相当額	33,922千円																																				
支払利息相当額	1,658千円																																				
1年内	1,830千円																																				
1年超	4,399千円																																				
合計	6,229千円																																				

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式21,300千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式11,300千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成22年3月31日現在)	当事業年度 (平成23年3月31日現在)
<b>繰延税金資産(流動)</b>		
貸倒引当金	270千円	-千円
未払事業税	10,740千円	6,220千円
賞与引当金分社会保険料	3,607千円	3,506千円
賞与引当金	28,203千円	26,785千円
棚卸資産評価損	22,440千円	24,289千円
その他	7,195千円	7,430千円
繰延税金資産小計	72,457千円	68,233千円
評価性引当額	20,603千円	23,619千円
繰延税金資産合計	51,853千円	44,613千円
<b>繰延税金資産(固定)</b>		
貸倒引当金	4,472千円	3,706千円
退職給付引当金	56,737千円	21,096千円
長期未払金	29,378千円	29,378千円
投資有価証券評価損	46,699千円	87,424千円
会員権評価損	7,817千円	7,817千円
資産除去債務	-千円	10,688千円
減損損失	4,154千円	3,624千円
その他有価証券評価差額金	21,996千円	-千円
繰延税金資産小計	171,256千円	163,736千円
評価性引当額	114,518千円	139,015千円
繰延税金資産合計	56,737千円	24,721千円
<b>繰延税金負債(固定)</b>		
その他有価証券評価差額金	-千円	612千円
繰延税金負債合計	-千円	612千円
繰延税金資産の純額	108,591千円	68,721千円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度(平成22年3月31日)

法定実効税率	40.7%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.6%
住民税均等割等	10.1%
評価性引当額	17.4%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.2%
その他	0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.9%

当事業年度(平成23年3月31日)

法定実効税率	40.7%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5%
住民税均等割等	9.4%
評価性引当額	18.3%
子会社清算配当金	2.1%
その他	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	67.5%

( 1株当たり情報 )

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり純資産額 646円02銭	1株当たり純資産額 662円56銭
1株当たり当期純利益 30円37銭	1株当たり当期純利益 17円47銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 潜在株式が存在しないため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり当期純損益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当期純利益(千円)	151,783	87,302
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	151,783	87,302
期中平均株式数(株)	4,996,991	4,996,406

(重要な後発事象)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(退職給付制度の移行) 平成22年5月7日開催の取締役会において、確定拠出年金法の施行に伴い、これまで退職給付制度として採用していた適格退職年金制度から、平成22年6月30日に確定拠出年金制度及び退職一時金制度へ移行することを決議いたしました。 この移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用する予定であります。これにより、翌事業年度において特別利益約85百万円を計上する見込みであります。	

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他 有価証券	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	213,900
		楽天(株)	870
		(株)グリーンクロス	20,000
		(株)みずほフィナンシャルグループ	20,150
		(株)カシワ	140
		(株)りそなホールディングス	3,300
		大林道路(株)	1,118
計		259,478	167,927

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他 有価証券	(ユーロ円債) BNPパリバ	1,000,000
		(ユーロ円債) BNPパリバ	1,000,000
		(ユーロ円債) 三菱UFJセキュリティーズINTL為 替リンク債	1,000,000
計		3,000,000	158,833

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,582,616	92,591	4,091	1,671,115	1,026,718	36,925	644,397
構築物	91,109	13,200	-	104,309	68,957	4,485	35,351
機械及び装置	6,416	-	-	6,416	5,956	116	459
車両運搬具	54,279	7,678	4,180	57,777	51,703	3,994	6,073
工具、器具及び備品	111,991	3,519	3,405	112,105	100,300	8,214	11,805
レンタル資産	875,341	181,977	124,544	932,774	757,716	124,703	175,058
土地	1,287,446	-	-	1,287,446	-	-	1,287,446
リース資産	521,084	181,669	2,443	700,310	218,554	124,607	481,755
有形固定資産計	4,530,284	480,636	138,665	4,872,255	2,229,906	303,047	2,642,349
無形固定資産							
電話加入権	7,938	-	-	7,938	-	-	7,938
ソフトウェア	32,470	570	-	33,040	29,862	1,936	3,177
その他	5,511	-	-	5,511	3,746	310	1,764
無形固定資産計	45,919	570	-	46,489	33,609	2,247	12,880
長期前払費用	8,230	102	8,230	102	46	46	55

(注) 1. 建物の「当期増加額」の主なものは、横浜支店事務所移転による新築費用65,147千円、本社ビル設備工事費27,000千円によるものであります。

2. 構築物の「当期増加額」は、横浜支店のアスファルト、外溝等工事費用によるものであります。

3. レンタル資産の「当期増加額」は、LEDサインライト関連商品等のレンタル投入額であります。「当期減少額」につきましては、レンタルの売上に使用した商品の除却によるものであります。

4. リース資産の「当期増加額」は、LED表示板等の所有権移転外ファイナンス・リースの計上額であり、「当期減少額」は所有権移転外ファイナンス・リースの解約によるものであります。

5. 「当期末減価償却累計額又は償却累計額」には、減損損失累計額が含まれております。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	45,163	26,790	16,809	21,327	33,817
賞与引当金	69,312	65,828	69,312	-	65,828

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は一般債権の貸倒実績率による洗替額18,973千円、回収による取崩額2,354千円であります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

資産の部

イ 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	8,149
銀行預金	
当座預金	169,455
普通預金	491,584
定期預金	1,689,454
別段預金	421
小計	2,350,915
計	2,359,064

ロ 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)ほくとう	34,132
大林道路(株)	31,750
飛鳥建設(株)	19,710
(株)森谷商会	14,738
(株)レックス	14,101
その他	635,070
計	749,504

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成23年4月	230,412
5月	202,347
6月	156,780
7月	129,323
8月	26,951
9月以降	3,687
計	749,504

八 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日本道路㈱	44,103
東亜道路工業㈱	37,350
大成建設㈱	32,837
清水建設㈱	30,733
大成ロテック㈱	29,979
その他	992,037
計	1,167,041

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D) 2 (B) 365
1,279,602	7,022,727	7,135,288	1,167,041	85.9	63.6

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

二 商品

品目	金額(千円)
標識・標示板	264,549
安全機材	88,583
保安警告サイン	176,063
安全防災用品	45,015
その他	57,730
計	631,941



負債の部

イ 支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
桜井(株)	28,350
(有)ファースト繊維	27,997
アラオ(株)	27,217
(株)パトライト	18,322
リス興業(株)	15,081
その他	358,945
計	475,914

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成23年4月	107,163
5月	99,440
6月	84,917
7月	96,812
8月	87,579
9月以降	-
計	475,914

ロ 買掛金

相手先	金額(千円)
愛知フェンス工業(株)	62,004
(有)ファースト繊維	9,414
アラオ(株)	7,989
(株)パトライト	7,259
安全興業(株)	5,862
その他	154,115
計	246,644

ハ 短期借入金

相手先	金額(千円)
(株)三菱東京UFJ銀行	724,000
(株)みずほ銀行	320,000
(株)りそな銀行	312,000
計	1,356,000

ニ 1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)三菱東京UFJ銀行	260,000
(株)みずほ銀行	410,000
(株)りそな銀行	60,000
計	730,000

ホ 長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)三菱東京UFJ銀行	740,000
(株)みずほ銀行	165,000
(株)りそな銀行	75,000
計	980,000

(3)【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行う。やむを得ない事由により、電子公告による ことができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 なお、電子公告は、当会社のホームページ上 ( <a href="http://saftec.co.jp/report/index.html">http://saftec.co.jp/report/index.html</a> ) に掲載しています。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### 1 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第53期）（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）平成22年6月30日関東財務局長に提出。

#### 2 内部統制報告書及びその添付書類

平成22年6月30日関東財務局長に提出。

#### 3 四半期報告書及び確認書

（第54期第1四半期）（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）平成22年8月11日関東財務局長に提出。

（第54期第2四半期）（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）平成22年11月12日関東財務局長に提出。

（第54期第3四半期）（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）平成23年2月10日関東財務局長に提出。

#### 4 臨時報告書

平成23年4月28日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号並びに第19号の規定に基づく臨時報告書であります。

平成23年6月30日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月15日

セフテック株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 安 義 利

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渥 美 龍 彦

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているセフテック株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、セフテック株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 追記情報

退職給付制度の移行に関する後発事象が、「重要な後発事象に関する注記」に記載されている。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、セフテック株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、セフテック株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ( ) 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 . 連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月17日

セフテック株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 稲垣 正人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渥美 龍彦

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているセフテック株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、セフテック株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、セフテック株式会社の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、セフテック株式会社が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ( ) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成22年 6月15日

セフテック株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 安 義 利

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渥 美 龍 彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているセフテック株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第53期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、セフテック株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 追記情報

退職給付制度の移行に関する後発事象が、「重要な後発事象に関する注記」に記載されている。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- ( ) 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 . 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

平成23年6月17日

セフテック株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 稲垣正人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渥美龍彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているセフテック株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第54期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、セフテック株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- ( ) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。